

新しい環境に飛び込む。

令和5年度
環境省総合職事務系内定者

内定者の声

長崎市の自然や街並み
長崎県稲佐山展望台から撮影

目次

I. 内定者統計

II. 内定者プロフィール

III. 試験対策

IV. 官庁訪問

V. 座談会

VI. ある内定者の心の内

環境省志望者へのメッセージ

おわりに

I . 内定者統計

アジサイ
京都市左京区にて撮影



出身地

東京都・・・4人 石川県・・・1人
宮城県・・・1人 三重県・・・1人
埼玉県・・・1人 京都府・・・1人
千葉県・・・1人 大阪府・・・1人
宮崎県・・・1人

最終学歴

院卒

33.3%

4人

8人

大卒

66.7%

試験関係

今年は法律区分が最も多い結果となりましたが、
年度によって区分ごとの採用数は異なります。

区分¥年度	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
教養	0	1	0	0	3	1	3	2
法律	7	2	2	1	2	4	0	7
政治国際	0	0	1	1	0	3	2	0
経済	3	1	2	3	1	1	0	0
行政（院卒）	2	2	0	2	2	3	3	3
合計	12	6	5	7	8	12	8	12
男：女	8:4	3:3	3:2	5:2	5:3	6:6	4:4	7:5

独学or予備校

独学

41.7%

5人

7人

予備校

58.3%

席次

上位50%以下

33.3%

4人

3人

上位25%

25.0%

5人

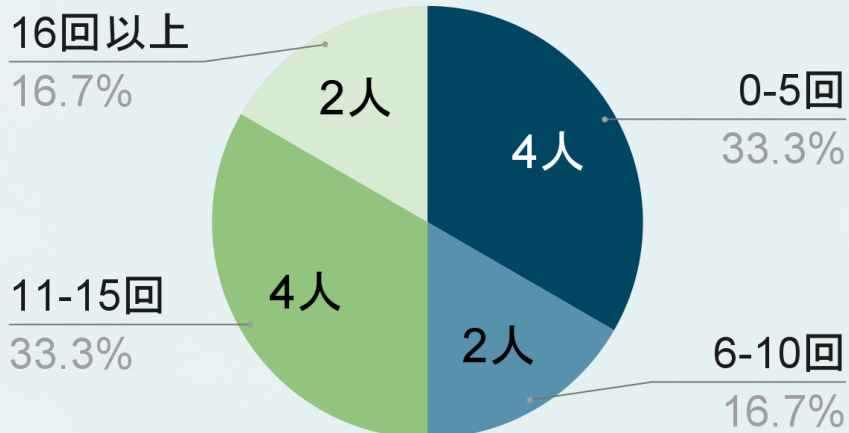
上位50%

41.7%

上位の席次の方が有利というのは、官庁訪問の噂としてよく流れますが、環境省での席次は上の通りになりました。

就職活動

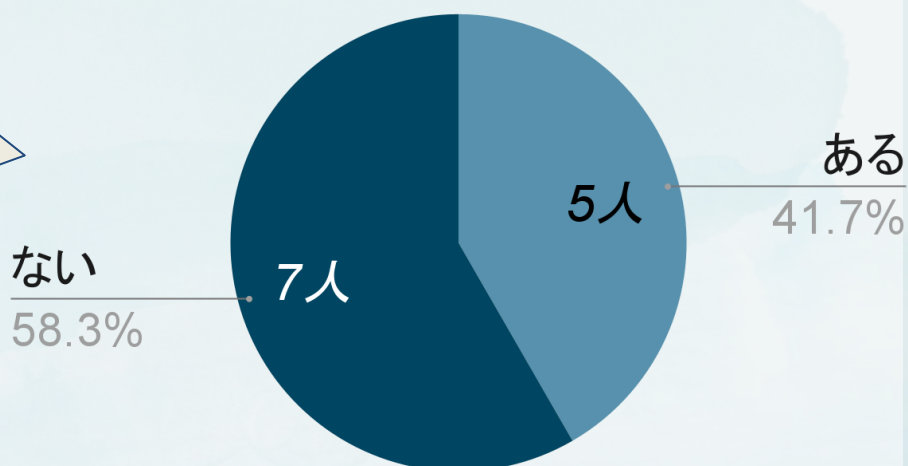
説明会等の参加回数



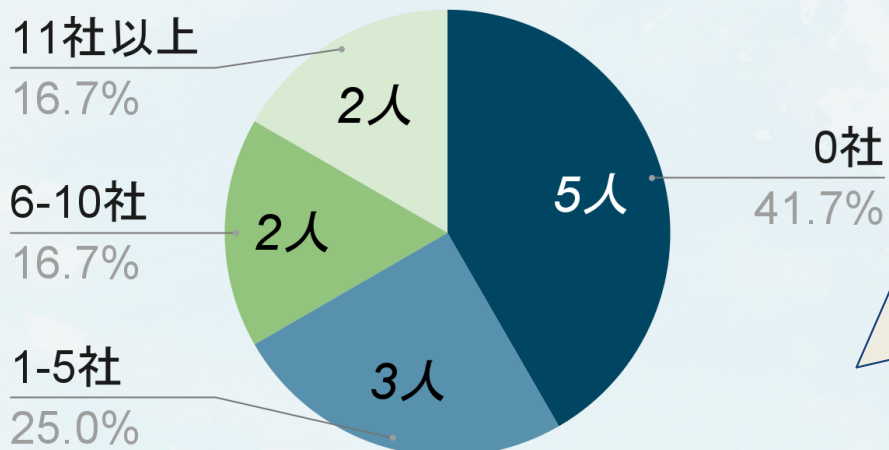
最少は0回、
最多は27回でした。

環境省インターンシップへの参加の有無

”ある”には、
サマートライアルへの
参加者も含まれます。



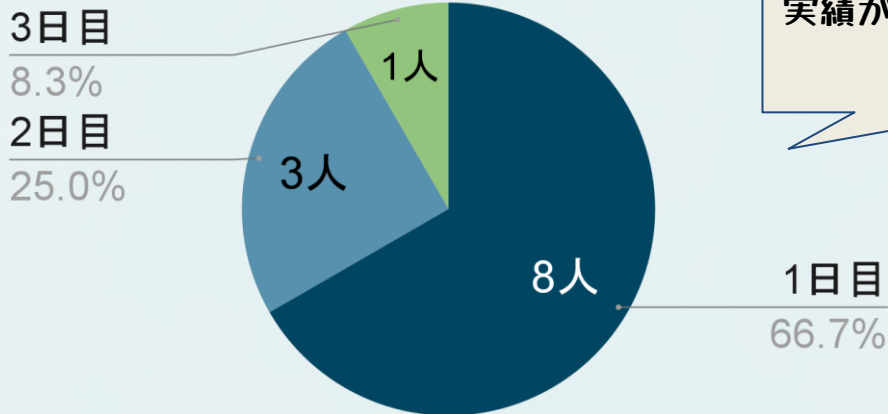
民間企業併願数



民間企業を受けていない人が多数派である中、民間の併願数約30社の方もいました。
また、公務員の併願は、国家一般職や地方公務員が多かったです。

官庁訪問関係

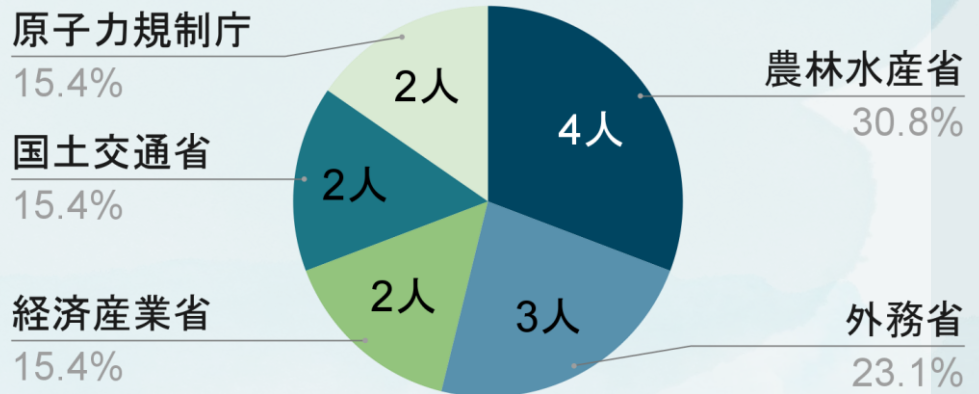
環境省の訪問日



例年2日目以降の訪問でも採用実績があります。

その他、公正取引委員会、厚生労働省、総務省、内閣府があがりました。併願パターンは人それぞれで多種多様です。

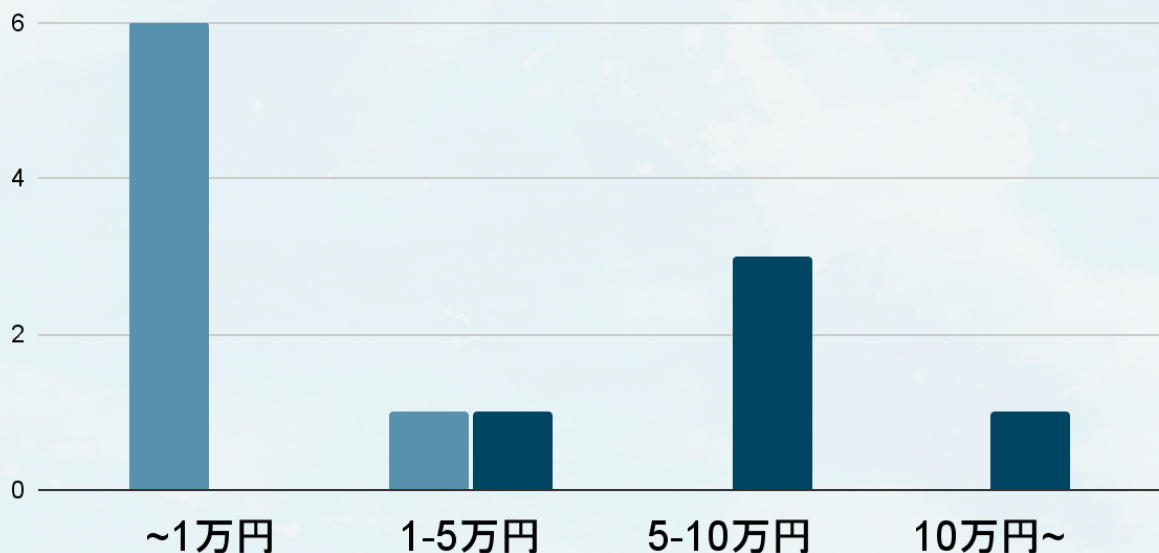
他の訪問省庁(2票以上のもののみ)



やはり、地方住みの受験生は首都圏に住む受験生よりもホテルや食事代等において費用がかかる傾向にあるようです。

官庁訪問の費用

■ 首都圏住み ■ 地方住み



Ⅱ. 内定者プロフィール



道路のすぐそばに広がる瀬戸内海
香川県香川郡直島町にて撮影



ハナミズキ ♂

試験区分/勉強法

法律
予備校

出身大学

国際基督教大学
教養学部

好きな飲み物

ココア

性格

天然

サークル/ゼミ

大学祭実行委員会
環境学ゼミ

趣味

映画鑑賞
読書
旅行

官庁訪問の
訪問先

1日目：環境省
2日目：経済産業省
3日目：農林水産省

他の
志望業界

独立行政法人
環境コンサルタント
シンクタンク

これが私の
大学生活！

大学祭実行委員会
ボランティア

関心のある
政策分野

気候変動対策
環境汚染対策

就活の軸

環境問題の解決につながる仕事、国際的に活躍できる仕事

志望動機

国家公務員…社会課題に授業や報道で触れ、課題の前線で本質的な解決に取り組み、日本や世界の人々の命と平和な日常を守りたいと思ったからです。問題に対処するだけでなく、問題を未然に防ぐ仕事や、国内外の幅広いフィールドで活躍できる環境に惹かれ志望しました。

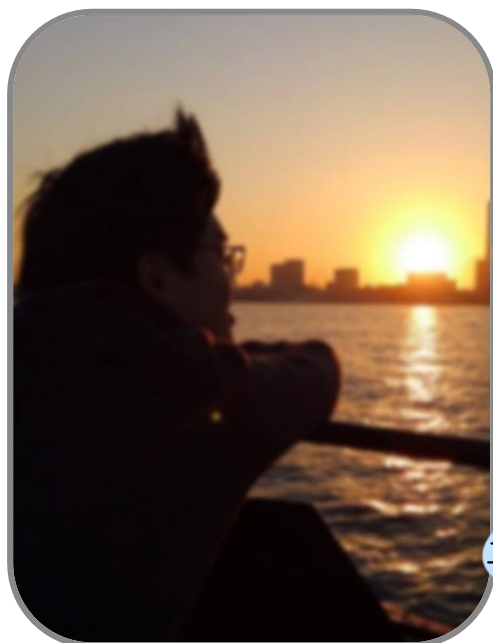
環境省…環境問題が様々な社会課題に関係し、解決に残された時間も少ないと学んだことから、解決に大きく貢献できる場で働きたいと思ったからです。環境省は、国内外で様々な人と議論して方針やルールを形成し、持続可能な社会を切り拓く点に惹かれ志望しました。

環境省を
選んだ
決め手

日本や世界の環境問題の解決を最も広い視点から考え、社会変革に挑戦できる所です。環境問題の解決には経済や社会全体の変革が必要なことから、様々な要素を俯瞰して捉え、あらゆる分野で解決に挑むことができる環境省を選びました。職員の方とお話して自分も一緒に働きたいと思ったことも決め手になりました。

就活で
大変だった事
&対処法

試験や面接に合格するか不安に感じる事が多かったです。不安な時には、友人と話して気分転換をしたり、先生に相談することを大事にしていました。また、面接はその会社との縁も左右するので、落ちても気にし過ぎないようにしていました。



ガーベラ ♂

試験区分/勉強法

行政
独学

出身大学

東北大学法科大学
学院

好きな映画

「踊る大捜査線」

性格

ユーモアに富む（笑
）

サークル/ゼミ

行政法ゼミ

趣味

カラオケ
散歩

官庁訪問の
訪問先

1日目：原子力規制庁
2日目：環境省
3日目：なし

他の
志望業界

なし

これが私の
大学生生活！

勉強

関心のある
政策分野

廃棄物処理
大気汚染

就活の軸

勉強したことが活かせる

志望動機

▶国家公務員（行政官）を目指したのは法曹（司法官）と異なり、トラブルが起こる前に、多くの人たちにその解決策を法律や制度として提供できると考えたからです。

▶環境省を目指したのは、大学院時代に環境法の学修をして面白いと感じ、今度は自分自身が法制度の立案側に立って仕事をしてみたいと考えたからです。

環境省を
選んだ
決め手

人事面接で自分のこういったところが評価されたのかをお尋ねしたところ、丁寧に伝えていただけたからです。と一緒に働かせていただく可能性がある以上、自分がどのような人間であると捉えられているかを自分自身も把握することは重要なことだと思います。

就活で
大変だった事
&対処法

地方に居住し（情報的格差）、かつ法科大学院修了生（公務員試験と司法試験との両立）という二重の障壁がありました。対応策としては、情報的格差はネットや本で補うしかありませんし、他の試験との両立も勉強するしかありません。しかし何より重要なのは、自分の今までやってきたことに自信を持つことだと感じました（勉強面だけでなく私生活も充実させておくことが肝要です。）。



クロユリ ♂

試験区分/勉強法

法律
予備校

出身大学

京都大学
法学部

好きなアニメ

『ノーゲーム・ノーライフ ゼロ』 『シュタインズ・ゲート ゼロ』

性格

ほわほわ
ふにゃふにゃ

サークル/ゼミ

生協学生委員会
百合文化研究会
福祉国家論ゼミ

趣味

アニメ鑑賞
アニメの舞台
に訪れること

官庁訪問の 訪問先

1日目：厚生労働省
2日目：公正取引委員会
3日目：環境省

他の 志望業界

エネルギー業界
金融業界

これが私の 大学生生活！

地方大出身
公務員併願
教養区分2次落ち

関心のある 政策分野

環境保健行政
地域脱炭素

就活の軸

弱い立場の方に手を差し伸べられる

志望動機

国家公務員を志望した動機は全国レベルで政策を動かすことで弱い立場の方を含めた”誰一人取り残されない”社会の実現に貢献できると考えたからです。

環境省を志望したのは大学1年生(2019年)にふらっと立ち寄った環境省の説明会で「これからの時代は環境保全と経済成長は両立していく時代だ」という新しい環境の価値に興味を持ち、それから公害対策から始まる「人の命と環境を守る」というDNAを受け継ぎながらも日々新しい「環境の価値」を見つけ、普及させていく環境省の姿勢に強く共感を覚えたからです。

環境省を 選んだ 決め手

1つは官庁訪問でお聞きした政策の話がどれも“面白い”と感じたからです。そしてもう1つは官庁訪問を実際にする事で目の当たりにした全ての職員の方に共通する「人と命と環境を守る」というDNAに強く共感し、かっこいいと思ったとともに自分もその1本の筋の通った価値の下で働きたいと強く思ったからです。

就活で 大変だった事 &対処法

教養区分2次試験で落ちたため面接やコミュニケーション的な選考に不安を感じていました。それに対し、面接直前に脳内でテンションのあがる曲を再生するなど自然体で、そしてこれがダメでもまだ他のチャンスはある、と気張らずに面接に臨めるように心がけて対処しました。

サボテン ♀



試験区分/勉強法

法律
予備校

出身大学

東京大学
法学部

好きな漫画

「呪術廻戦」

性格

おおらか

サークル/ゼミ

国際法ゼミ
行政学ゼミ

趣味

読書(漫画含む)
サッカー

官庁訪問の
訪問先

1日目：環境省
2日目：農林水産省
3日目：なし

他の
志望業界

商社
総合コンサルタント

これが私の
大学生生活！

ゼミ
部活
アルバイト

関心のある
政策分野

カーボンクレジット
CCSの導入

就活の軸

幅広く環境問題の解決に資することができる仕事

志望動機

国家公務員を志望したのは、日本全体の利益を考えて行動することができる仕事だと考えたからです。

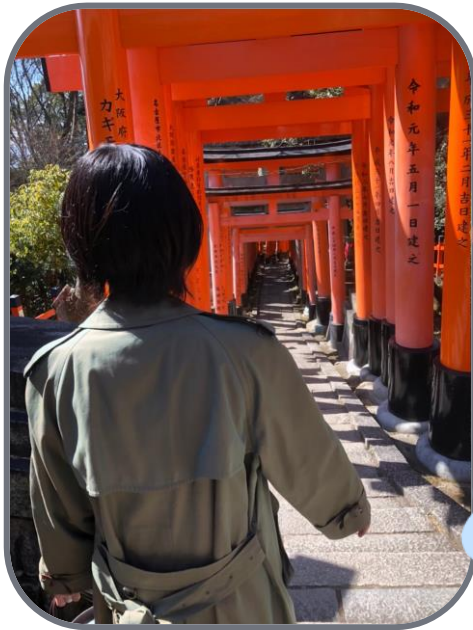
環境省を志望したのは、豪雨で避難した経験から、甚大な自然災害の原因となる気候変動問題への対処に携わりたいと考えたからです。

環境省を
選んだ
決め手

自分が実現したいことと業務内容が最も合っていたからです。国際的に重要課題である気候変動問題に関心があり、業務を通じてこの問題に向き合うことができる場だからです。また、環境問題という射程の広い問題について取り組むことで、様々な角度から国内外の業務に携わることができる点に魅力を感じました。

就活で
大変だった事
&対処法

大学3年次に就活し損ねてしまい、保険がない状態で官庁訪問することがとても不安でした。対処はできなかったですが、3年生からできる範囲で良いので少しずつ就活を始め、内定を持った状態で官庁訪問すると気が楽になると思います。



ベンジャミン 女

試験区分/勉強法

行政
独学

出身大学

京都大学
公共政策大学院

好きなSF小説

『1984年』『三体』『
ねじまき少女』『
すばらしい新世界』

性格

気丈

サークル/ゼミ

軽音サークル
国際取引法ゼミ
環境政策実務事例研究

趣味

映画鑑賞、
料理など

官庁訪問の 訪問先

1日目：環境省
2日目：外務省
3日目：なし

他の 志望業界

シンクタンク
コンサルタント

これが私の 大学生生活！

法、映画、グルメ

関心のある 政策分野

気候変動対策
海洋プラスチックごみ対策

就活の軸

社会課題の解決

志望動機

私は、国家公務員になりたかったというより、環境問題に係る政策に関わる仕事を第一の志望としていました。その理由としては、地球環境と人間社会の共存というビジョンのために働きたいという思いが挙げられます。その上で、やはり国家公務員という身で働くことが、環境問題という視点からも、公益により直接的に働きかけることができるため、環境省入省を目指しました。

環境省を 選んだ 決め手

上記であげた動機に加えて、官庁訪問等を通して職員の皆様のもつ環境政策に対する考えや理念をお伺いし強く共感し、「ここで私も」と思ったことが、選んだ決め手です。

就活で 大変だった事 &対処法

働くことに対する抽象的な自分のビジョンを、どのように具体的企業・就職先として落とし込むかが、最も悩んだところでした。これに対し、とにかく先輩の話や企業説明会、官庁の説明会に参加して自分の考えとすり合わせることで乗り越えました。



バラ ♂

試験区分/勉強法

法律
予備校

出身大学

慶應義塾大学
総合政策学部

好きなファッション
ブランド
y/project
Raf simons

性格

素直

サークル/ゼミ

大学祭実行委員会
法律のゼミ

趣味

ファッション
旅行
坂道グループ

官庁訪問の 訪問先

1日目：環境省
2日目：国土交通省
3日目：なし

他の 志望業界

地方公務員(鹿児島、北海道)
裁判所事務官、特別区

これが私の 大学生活！

アルバイト
洋服

関心のある 政策分野

資源循環政策
脱炭素

就活の軸

公務員になる

志望動機

個人がそれぞれの価値観で豊かさを実現し日本のどこでも不安なく未来を思い描ける社会を実現したいと思い、国家公務員を志望します（人事院面接の原文ママ）。北海道への旅行等を経て、東京や神奈川における人々の暮らしや社会状況と北海道や鹿児島等の人々の暮らしや社会状況の違いに気づき、その中でも皆が豊かな社会が実現したいと思いました。

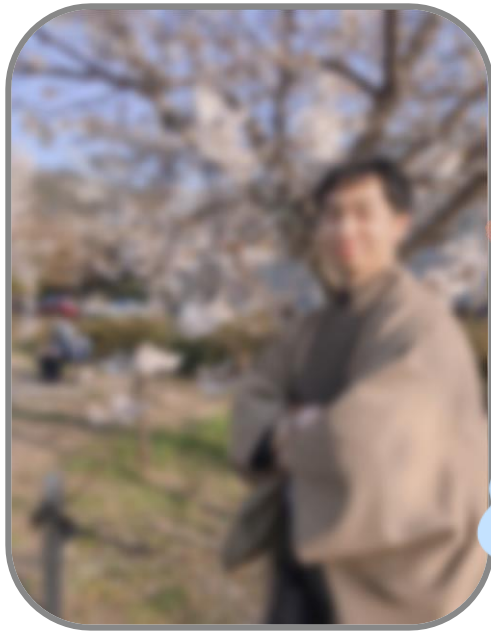
その中で、環境省を選んだのは、経済的・精神的な豊かさの実現に寄与すると考えたからです。さらに、旅行等を経て、日本のかけがえのない風景を守り引き継ぎたいと感じていたことです。

環境省を 選んだ 決め手

人々の豊かさの実現や日本のかけがえのない風景を守りたいという目標にストレートに向き合えるのは環境省であると考えたことです。そして、働いている皆さんの目標意識が環境を守り、将来世代に受け継ぐという点に帰着するように感じ、その上で自分が環境政策に携われるとした時にどういう役割を演じたいかと考えたときに、環境省の役割で働きたいと感じました。また、官庁訪問中にお話した職員さんや官庁訪問者と一緒に働きたいと思ったことも決め手の一つです。

就活で 大変だった事 &対処法

周りが就活を終えていくのが一番メンタル的に辛かったです。公務員単願だと、民間就活組が遊び始めるときに勉強することになります。そんな時のストレス発散には必ず好きな音楽を聴きながら散歩をしていました。散歩は自分と向き合える時間になるのでおすすめです（散歩中に環境省を志望しようと考えました）。



モモ ♂

試験区分/勉強法

行政
独学

出身大学

京都大学公共政策
大学院

好きな景色

実家から見える
小学校の桜

性格

献身的

サークル/ゼミ

政策立案体験ワークシ
ョップの実行委員会
英語ディスカッションサ
ークル

趣味

野球観戦
居合道

官庁訪問の
訪問先

1日目：環境省
2日目：国土交通省
3日目：原子力規制庁

他の
志望業界

金融機関
地方自治体

これが私の
大学生活！

部活動
サークル

関心のある
政策分野

地域脱炭素
福島汚染土壌処理

就活の軸

公共性が高い仕事、全国に働く場所がある

志望動機

国家公務員を目指したのは、国民の生活を豊かにするため、国民が当たり前
に持っているものを守りたいと感じたからです。社会で働くにあたって、日本人
として福島の問題に関われることができないかということも、国家公務員を目
指したきっかけの一つでした。

環境省を目指したのは、当たり前にあるものの中でも、経済活動や健康といっ
たものではなく、大気や自然など、人が普段の生活の中で中々目の届かない
部分を守ることができると思ったからです。

環境省を
選んだ
決め手

環境省のあゆみに共感した点が大きかったです。公害対策から始まった仕事
が、時代に合わせて気候変動対策や福島の事故処理など仕事の内容も変わ
っていきながら、人と環境を守り続けることのできることに魅力に感じました。
一緒に官庁訪問を受けていた同期の学生と待機時間に政策の話がずっとでき
て、同期との会話の中でも成長できる環境があることも決め手の一つでした。

就活で
大変だった事
&対処法

自分にどういった仕事が合っているのか、民間も含め様々な説明会に行って
もわからなかった点がとても不安でした。とりあえず、インターンや採用試験
を受けて、思い切って飛び込んでいくことではっきりしてきたように思います。



クスノキ ♂

試験区分/勉強法

教養
独学

出身大学

東京大学
教養学部

好きな野菜

トマト

性格

まじめ

サークル/ゼミ

国際交流

趣味

ソフトテニス
野球観戦

官庁訪問の
訪問先

1日目：外務省
2日目：環境省
3日目：なし

他の
志望業界

特になし

これが私の
大学生生活！

サークル

関心のある
政策分野

気候変動
大気汚染

就活の軸

社会貢献

志望動機

〔国家公務員〕 社会人人生の中で、社会をより良くしたい、より良い社会を後世へ引き継ぎたい、と思っており、それを実現できる業務に携わりたいためです。

〔環境省〕 環境という人間にとって不可欠な部分を中心的に取り組むことができるためです。特に気候変動対策と大気汚染対策に関心があります。前者については、数年前熱中症になり、その危険を身をもって感じて、取り組みたいと考えています。後者については、地元が三重県四日市市で、私が育った期間は、大気汚染は改善されていました。それは先人の努力が積み重なったためであり、私も引き継いでいきたいためです。

環境省を
選んだ
決め手

2点あります。1点目は、環境を軸に、地方～国際という幅広い領域での政策立案に携われる点です。特に気候変動対策では、あらゆるアクターの行動/生活様式の変容が不可欠であり、そこに携われるためです。2点目は、説明会やインターンシップ、官庁訪問等で出会った職員が素晴らしい方ばかりで魅力的な職場環境であると感じた点です。

就活で
大変だった事
&対処法

特に官庁訪問期間中は、精神的なプレッシャーが厳しく大変でした。そのため、可能な限りしゃべるようにしていました。官庁訪問中の待機時間の半分以上は、友人や近くにいる人と話し、訪問がない日は実家の親と電話で話しました。



ツバキ 女

試験区分/勉強法

法律
予備校

出身大学

早稲田大学大学院
法学研究科

好きな駄菓子

ヨーグレット
ハイレモン

性格

ブレない

サークル/ゼミ

吹奏楽サークル
環境法ゼミ

趣味

アニメ鑑賞
音楽鑑賞

官庁訪問の 訪問先

1日目：環境省
2日目：なし
3日目：なし

他の 志望業界

メーカー
エンタメ
独立行政法人等

これが私の 大学生生活！

接客アルバイト
ゼミ活動

関心のある 政策分野

気候変動対策
資源循環政策

就活の軸

社会貢献性、環境問題解決に大きな影響力をもつ仕事

志望動機

あまり利益追求に関心がなく、公共性の高い仕事の方がやりがいを持って働くことができると思っていました。色んなものが好きで、色んなことに興味があるので、ひとつの企業・自治体等に入って、そこが扱う範囲の商品・サービス・分野にのみ目を向けて働くというのは気が進まなくて、広い視野を持って仕事ができる国家公務員を志望しました。

また、環境問題に関して、自分も一原因者であるという罪悪感があったので、その解決のために貢献できる立場で働けたら、罪悪感を払拭し、自分の仕事に胸を張って生きることができると思い、環境省を志望しました。

環境省を 選んだ 決め手

環境省の決め手は、仕事内容と、職員の皆さまの人柄です。官庁訪問時に様々な分野のお話を伺いましたが、どの政策分野にも関心を持てたことと、関わるができる段階や主体の幅広さに惹かれたことは、大きな決め手となりました。また、フラットにお話してくださる職員さんが多く、その雰囲気は自分の肌に合っていると感じました。

就活で 大変だった事 &対処法

民間就活でも環境省の面接でも、環境問題にしか関心のない学生だと思われるのではないかと不安でした。学部時代のゼミでの課外活動やアルバイトなどの経験を話し、様々なことを楽しめる性格や好奇心旺盛である点を理解してもらえよう努めました。



シロツメクサ ♀

試験区分/勉強法

法律
独学

出身大学

大阪大学
法学部

好きな芸能人

関ジャニ∞

性格

まじめな
おっちょこちょい

サークル/ゼミ

吹奏楽団
データ分析ゼミ

趣味

筋トレ

官庁訪問の 訪問先

1日目：環境省
2日目：経済産業省
3日目：農林水産省

他の 志望業界

小売
マスコミ

これが私の 大学生生活！

吹奏楽
ヴィーガン
インターンシップ

関心のある 政策分野

地域循環共生圏
プラスチック削減

就活の軸

生きる基盤である地球を残す方法を考えられるか

志望動機

国家公務員を目指した最初のきっかけは環境省に入りたいと思ったことでした。調べているうちに、2, 3年という期間で新しい仕事に挑戦できる環境が、好奇心旺盛で様々なことに挑戦したいと思う自分の性格に合っていると感じました。

環境省を目指したのは、自分がいつも通り生活することによって、ゴミが出たり、気候変動が進むなどして苦しむ人がいる現状に危機感を持ち、このまま傍観者として人生を終えたくないと思ったためです。

環境省を 選んだ 決め手

環境省では、環境問題の取組の必要性を訴えるだけでなく、どうして取り組めないのかという原因に向き合うことができ、着実に問題解決に寄与できると思いました。

また、フリーアドレスの導入など働きやすい環境を整備されている点や、官庁訪問において自分の素を自然に出すことができた点も大きな決め手となりました。

就活で 大変だった事 &対処法

試験や面接の対策をいくら行っても自信が持てず、自分を追い込みすぎてしまい辛かったです。ですが、公務員を目指す友達と毎日一緒にお昼ご飯を食べたり笑ったりして気持ちに余裕ができました。本音を話せて切磋琢磨できる友人を持てて幸運だったと感じます。



サクラノウ ♂

試験区分/勉強法

教養
予備校

出身大学

東京大学
文学部

好きな作家

星新一

性格

不器用

サークル/ゼミ

無所属

趣味

自転車
温泉
読書

官庁訪問の
訪問先

1日目：環境省
2日目：総務省
3日目：内閣府

他の
志望業界

大学院

これが私の
大学生活！

国語学
アルバイト

関心のある
政策分野

地域循環共生圏の創造
生物多様性の保全

就活の軸

パブリックセクター、地方からの貢献

志望動機

国家公務員…せっかく働くのであれば少しでも社会へ貢献ができる仕事がしたい、そして社会の正しい基盤づくりに自分自身の手で関わりたいという思いから、国家公務員をめざしました。

環境省…そのなかでも、日本という国を形作る「地方」から国全体へ貢献できる仕事がしたく、そこに大きく関わる「環境」に強い関心を抱くようになったことが環境省を志望したきっかけです。国民の暮らしの大前提を支える仕事ができるだけでなく、世界という大きなフィールドでも仕事ができ、非常に長い時間軸で物事を考えることのできる点に強く惹かれました。

環境省を
選んだ
決め手

ひとつは、自分自身の関心・就活の軸と合致していたことです。地域単位での環境問題への取り組みを国全体にひいては世界全体に広げていくことに魅力を感じました。

また、説明会・官庁訪問で触れる職員の方の人柄や将来世代に対する思いに強く惹かれ、ここでなら恵まれた環境で楽しく働くことができると感じたことが決め手となりました。

就活で
大変だった事
&対処法

自分自身を改めて見つめ直し、そのうえで自分の魅力を初めて会った人に理解してもらえるようにすることが大変でした。一度の機会を大切にして積極的に自分自身を見せていくことが重要だと思います。



コクタン ♀

試験区分/勉強法

法律
予備校

出身大学

東京外国語大学
国際社会学部

好きな食べ物

お味噌汁

性格

なんでも楽しめる

サークル/ゼミ

国際法ゼミ

趣味

音楽鑑賞

官庁訪問の
訪問先

1日目：環境省
2日目：農林水産省
3日目：外務省

他の
志望業界

なし

これが私の
大学生活！

言語
議論
サークル

関心のある
政策分野

資源循環
福島復興

就活の軸

長期的な視点を持って日本のために働けること

志望動機

国家公務員…高校時代に留学したことを契機に日本の過ごしやすさを意識するようになり、国家公務員として将来の日本の過ごしやすさに貢献したいと思うようになりました。

環境省…その後、過ごしやすさの根幹をなす環境の分野に関心を持って学ぶ中で、環境という軸をもって将来世代まで視野に入れた対策を国が行うことの必要性を感じるようになり、それができるのがまさに環境省でした。

環境省を
選んだ
決め手

環境を軸に人々のライフスタイルにまで働きかけられる点が魅力的でした。また、説明会や官庁訪問で人間味あふれる職員の方々にお会いし、自分もこんな方々と一緒に働きたいと思うようになりました。

就活で
大変だった事
&対処法

周囲に国家総合職志望の人が少なく、対策に抜けている点があるのではないかと不安に感じることもありましたが、予備校を活用するなどし、できる限り多くの情報を得ることで乗り切りました。ただし全てを鵜呑みにする必要はないと思います。

Ⅲ. 試験対策



京都府城陽市のレジャー施設にて

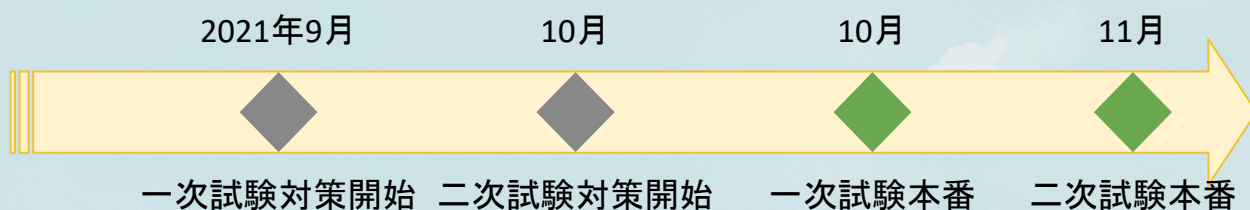
教養区分（大卒）

クスノキ（2021年度）
サクラソウ（2021年度）

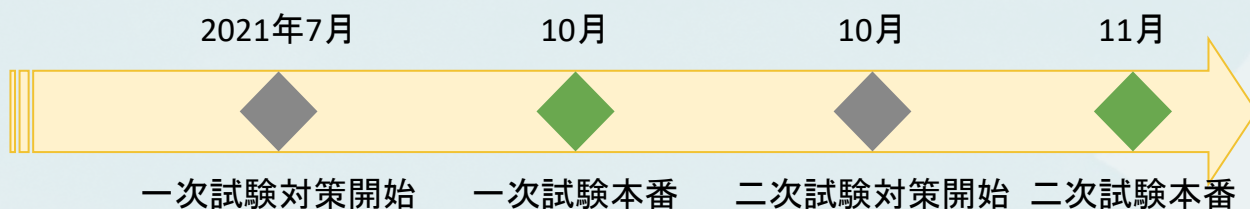
勉強スケジュール



クスノキ



サクラソウ



一次試験の勉強方法を教えてください！



クスノキ

過去の試験問題を数年分時間を測って解く。
市販の問題集の解答方法を読む。



サクラソウ

知能分野は時間だけが課題だったので、時間を計りながら問題数をこなしていました。
知識分野は自分の得意科目やコスパがいいと評判の科目を取捨選択して、インプットと問題演習を各科目ごとに繰り返していました。
論文対策は予備校の授業で一通り書き方などをインプットした上で添削サービスを利用していました。

二次試験の勉強方法を教えてください！



クスノキ

企画提案試験：友人や知り合いの先輩と模擬練習を行った。
政策課題討議試験：数回友人と集まってグループディスカッションを類似問題で行った。
人物試験：知り合いの先輩に模擬面接をしてもらった。



サクラソウ

対策に使った時間としては、多い順に企画提案→人物試験→政策課題討議。
企画提案は、提示された資料の読み込みのあとは、友人どうしでお互いの案について突っ込みを入れながらブラッシュアップをしていきました。
政策課題討議では、友人たちと数回模擬で練習をしました。時間があれば試験官の役割になってみると評価する側の視点が持てるかもしれません。

最後に一言メッセージをお願いします！



クスノキ

ありきたりですが、いつ十分な勉強時間を確保できるかわからないので、早め早めに対策を進めた方がいいと思います。



サクラソウ

英語の試験の加点は案外大きいので、時間があるうちに受けるのがおすすめです。

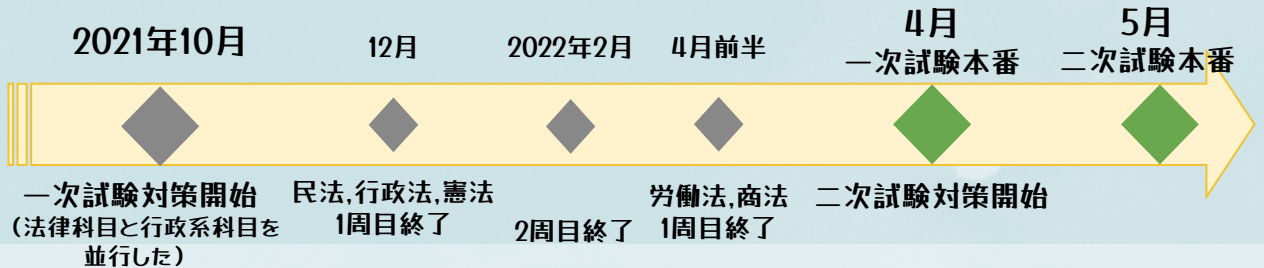
法律区分(大卒)

バラ (2022年度)
 コクタン (2022年度)
 シロツメクサ (2022年度)
 サボテン (2022年度)
 クロユリ (2022年度)
 ハナミズキ (2021年度)
 ツバキ (2020年度)

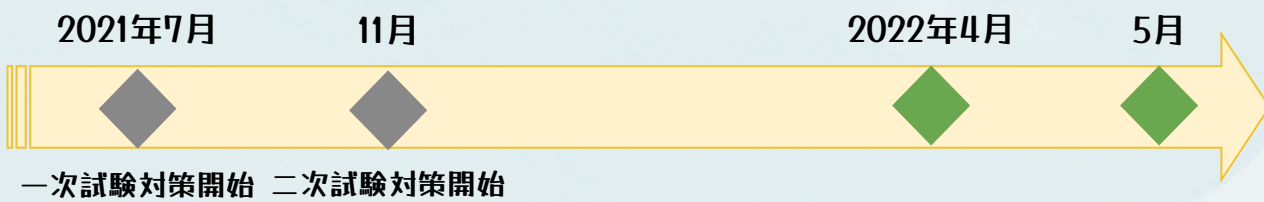
勉強スケジュール



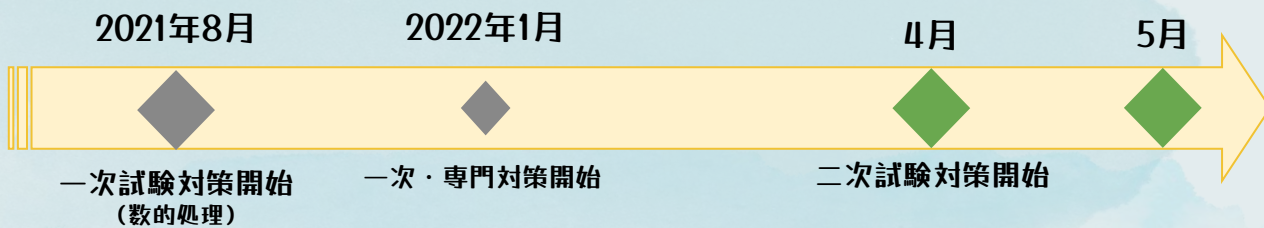
バラ



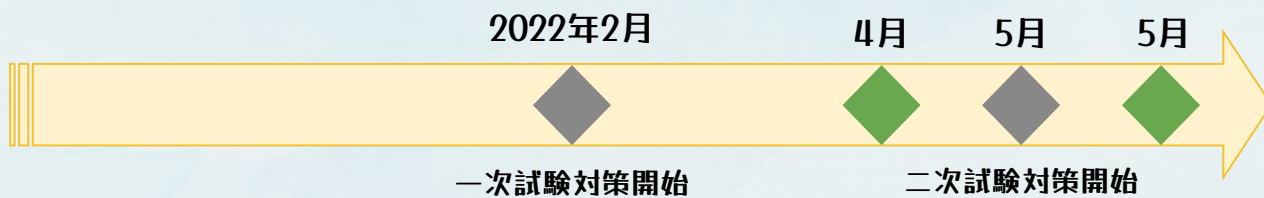
コクタン



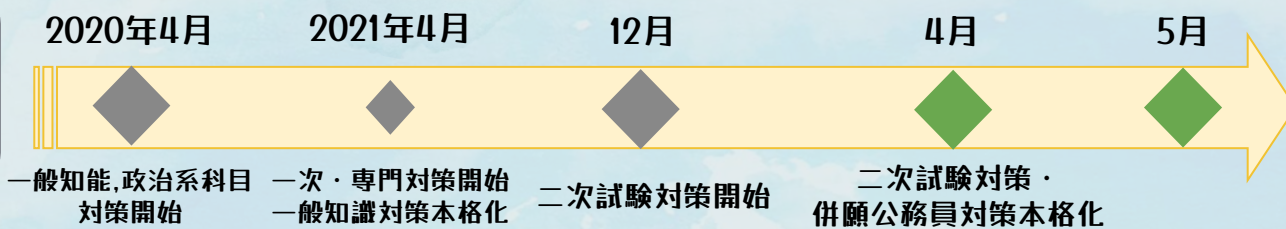
シロツメクサ



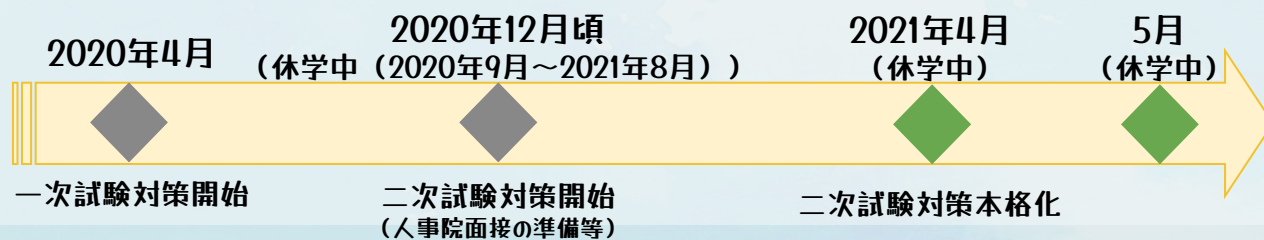
サボテン



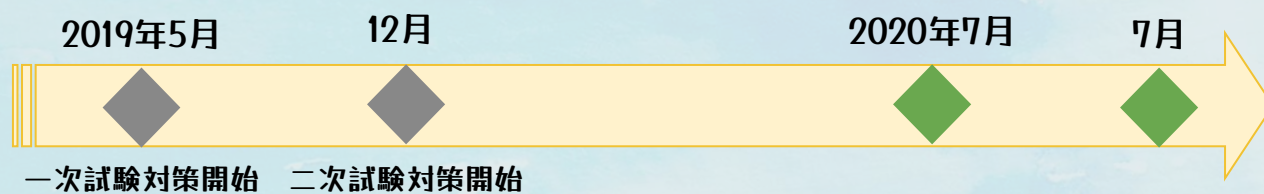
クロユリ



ハナミズキ



ツバキ



一次試験の勉強方法を教えてください！



バラ

予備校に通っていたので、その講座を消化していくことをメインに勉強していました。短答では、司法試験用の短答の一問一答の本を買って、電車内やバイトの休憩時間にやり込んでました。過去問でも特有の引っ掛け方があり、何度も解き直しました。



コクタン

基礎能力試験は数的処理の対策に時間を割き、特に試験直前は時間の使い方を意識して対策した。専門試験は、法律区分で出題数の多い憲法、民法、行政法の勉強に時間を割いた。



シロツメクサ

法律系の科目は市販の参考書を買って、全体を3.4周しました。教養系の科目は大学の公務員講座で勉強しました。数的処理は問題集全体を2周し、苦手な点をもう1周解きました。苦手な英語は毎朝解くようにし、知識系は重要な点のみ暗記していました。



サボテン

ひたすら過去問を解く。



クロユリ

【専門】知識を一通り学習し、ひたすら択一問題集(各科目100～200問)を全ての選択肢が理解できるまでひたすら解く。民憲行は5～10周、選択科目も全科目3周し、不安な知識はテキストに戻るの繰り返し。

【基礎能力】数的は毎日5問、英文は1問をルーティン化。教養区分前までは知識は苦手な科目を中心に1科目あたり0.5週～2週間のペースで問題集を回す(できて2～3周)。教養区分2か月前からは毎日数的推理の過去問を0.5年分をセットとして1時間と時間を決めて解き、本番に近い形で練習する。逆に法律区分直前は試験2週間前から特に不安な知識分野のテキストを見返すだけでルーティン以外に時間は割かない。



ハナミズキ

予備校を利用して、法律や数的処理などの授業を受け、過去問の問題集を解いて勉強していました。まずは授業で基礎を身に付けた上で問題を解くことで、応用力や問題傾向をつかむことができました。何度も繰り返し問題を解き、テキストを確認することで、細かい知識も積み上げていくことができました。



ツバキ

予備校の授業にできるだけ毎回対面で参加してインプットの時間を確保していました。家では、ひたすら問題集を周回していました。

二次試験の勉強方法を教えてください！



バラ

予備校に通っていたので、その講座を消化していくことをメインに勉強し、答案を何度も書き直し自分の納得できる解答を作成していました。そして、本番では大きなA3の解答用紙に書くので、その用紙で書く練習をしていました。さらに、憲法は論文の書き方が特殊なので、それに慣れるために何度も書いたり考えたりしました。



コクタン

専門記述の対策は、対策の必要性が低い公共政策を1問選択し、残り2科目に集中した。一次試験に必要な知識に紐付けながら二次試験に必要な事項を記憶していった。政策論文は何度か書いてみて添削を受けた。また、実際に書いてみることでできなくても、過去問を見てどのようなことを書くかを考え構成のメモを作成する練習をした。



シロツメクサ

法律の記述は、過去問の解答構成ができるように繰り返し構成のメモを作りました。市販の参考書のまとめページを見ながら、記述に必要な基礎知識を復習しました。公共政策Aや政策論文は過去3年分を解き、受講生同士で講評合っていました。



サボテン

ひたすら過去問を解く、一次試験を見返して知識に穴がないか確認する。



クロユリ

答案の型を覚えるために民憲行の記述式問題集の2000字以内の模範答案を書き写す(各教科10問を3周ほど)。
未見問題へ対応できるように答案は書かないでも使わなかった過去問・司法試験用の問題集を読んで論点抽出練習。
主要条文ナンバーの暗記と憲法の論証パターンの暗記、行政法民法の論点周りの知識補充のためにテキストを今一度答案にできる形で見直す。
(記述試験の時間配分の似た形式の二次試験を受けに行く)



ハナミズキ

2次の論文試験は予備校の回答例などを参照しながらどのような流れで書くかや、どの文言を覚えるべきかを把握し、繰り返し問題を解いて練習していました。一次試験の時によく出てくる重要なキーワードを一次試験の勉強の際に余裕があれば覚えたりしていましたが、基本的には一次試験後に集中して勉強していました。



ツバキ

予備校の授業に参加して、各科目数回は論文を書く練習をしたのですが、年明け以降は、まず一次試験に通るかどうか不安すぎて、二次のことは忘れて一筋の勉強ばかりしていました。そうしているうちに、専門記述がカットされるというお知らせが出たので、ほとんど勉強しないまま終わりました。（参考にならずすみません。）

最後に一言メッセージをお願いします！



バラ

法律区分において、一次試験の専門試験の試験時間は想像以上に長いです（体感時間も実際の時間も）。そこで、現場思考の問題をしっかりと考え、論理的に解答を選べるかが重要であると思います。
逆に、二次試験の専門試験は想像以上に短いです。あっという間に4時間が経過します。事前にどの科目にどの程度の時間を割くのかを決めておく必要があります（僕は、最後の科目の民法に入った時残り60分しかなく、「あ。。。」と思いました。）。

振り返ってみると、大卒程度法律区分の場合2次試験の受験者数が少ないこともあり、一次試験を突破することが最重要でした。
本番は焦らず、多少の想定外は起こって当然という心構えで臨むとよいのではないのでしょうか。



コクタン



シロツメクサ

一次試験直前の3日間で法律の問題集を焦って一周したせいか知識がごちゃ混ぜになり何問か間違えてしまいました。試験直前には苦手分野を重点的に解く体制にしておくといいと思います。
二次試験の雰囲気は、一次試験時と比べゆったりとしているのに、試験時間には余裕が無いので注意です。

私は、試験勉強を開始するのが遅すぎたのですが、できるだけ早くから試験の過去問に当たるべきだと思います。



サボテン

一次試験は専門試験の方が先です。お昼の時間に法律を見直す時間はありません。

私の場合教養区分二次試験で落ちてから法律区分には本腰を入れることになりましたが、教養区分一次試験が終わった翌日から民憲行の問題集を毎日30問、12月に教養区分が落ちたことが分かってからは毎日60問以上を回すように励行しました。それは1日だけ設けた休みの日以外の正月も同様です。その積み重ねのおかげで正直本番、一次試験も二次試験も試験中に心が折れても合格できました。準備段階はなるべく詰められるだけ詰め、そうしたら本番で心が折れても合格点には辿り着く。外道な体験談ではありましたがこれもまた1つの事実として、本番で余裕を持って合格できるように今の準備段階は頑張ってください。



クロユリ

やみくもに勉強するのではなく、戦略を立てることをおすすめします。私はざっくりとこの時期までにこの科目の授業を受け、問題集は1周解くなどと、計画を立てて勉強することで、漠然とした不安を感じすぎずに淡々と勉強できました。予定も適宜見直して、合格への近道を探りながら効率的に勉強すると思います。



ハナミズキ

私は、試験日から逆算して勉強のスケジュールを立てたりすることなく、勝手気ままに勉強をして試験当日を迎えてしまったのですが、それでなんとか合格することができたのは、新型コロナウイルス感染症の影響により、試験が延期になったり、専門記述がなくなった（2020年度試験）からであって、このような運任せの賭けにはでるべきでないと思います(笑)。計画的に勉強して、万全の対策をした上で試験日を迎えることができれば、私と違って、不安感なく自信をもって試験に臨むことができると思います。

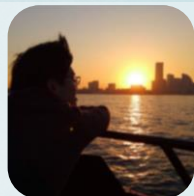


ツバキ

行政区分(院卒)

ガーベラ (2022年度)
モモ (2022年度)
ベンジャミン (2022年度)

勉強スケジュール

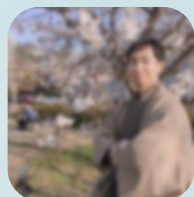


ガーベラ

※勉強方法については以下の項目をご覧ください。

4月
一次試験本番

5月～6月
二次試験本番



モモ

2021年4月

2022年4月

4月

5月

一次試験対策開始

二次試験対策開始



ベンジャミン

2022年2月

4月

4月

5月

一次試験対策開始

二次試験対策開始

一次試験の勉強方法を教えてください！



ガーベラ

教養試験は、特段の対策ができる時間はありませんでした（学部1・2年に学内の公務員講座を受けていたこともあったので、それを思い出す程度）。

専門試験は、司法試験の短答式試験の対策がそのまま流用できます。ただし、行政法がたくさん出題されるので、別途対策すべきです。司法試験の短答式は、憲法・民法・刑法のみなので。（したがって、行政法の短答対策をしたことがある予備試験受験経験者が有利です。）。当日は、地方自治法や公務員法も出題されますが、それらを勉強するよりも、他の知識を正確に押さえるほうが大切です。



モモ

大卒試験の時に使っていた予備校の問題集や、過去問の問題集を使って勉強していました。解説をしっかりと読むことで一つの問題から得られる情報になるべく増やしていました。



ベンジャミン

春休み（2月～3月）を利用して、教養・専門双方とも、集中的に問題集を解いていました。また、教養に関しては、過去問をたくさん解くことによって、制限時間内に解く練習をしていました。

二次試験の勉強方法を教えてください！



ガーベラ

専門試験は司法試験の論文式試験の対策がそのまま流用できます。ただし、司法試験と異なり、六法は参照できないので、重要条文を暗記する必要があります（これが意外と難しいです。）。論点はさほど難しくなく、解答科目も当日選べます。解答用紙には、司法試験と異なり、マス目がついています。ナンバリングはしても構いません。ボールペンで書きます。基本的には事例問題が中心ですが、憲法は、司法試験の短答式で出題されるような細かいプロパーの知識が出されました。短答式の知識を論文式に置き換えるというのは意外と難しいことですが、こういった問題は現場思考で何とか埋めましょう。



モモ

大卒試験の時に使っていた予備校の問題集や地方上級までの過去問を含む問題集を使って勉強していました。実際に書き出す前の構成作成を中心にやって効率よく範囲をカバーしていました。政策討論については、形式をしっかりと把握し、これまでの授業やサークルでの議論の機会を振り返り、気をつけておくべきことをまとめてから臨みました。



ベンジャミン

筆記試験では記述問題に備えて、選択科目の参考書や大学で使っている教科書などで知識の確認をしつつ、過去問を使って解答作成の練習をしていました。また、院卒区分受験者対象で行われる政策課題討議に関しては、特に対策は行っていません。

最後に一言メッセージをお願いします！



ガーベラ

法科大学院生や修了生もぜひ、国家総合職の受験をしてみてください。
ちなみに、2022年のスケジュールを参考までに摘示すると、3月に法科大学院を修了し、4月に総合職一次試験（択一式）、5月に司法試験、総合職二次筆記試験、6月に総合職二次面接試験・政策討議試験、官庁訪問となりました。

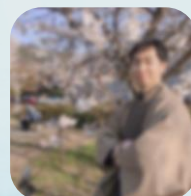
司法試験を受験した場合、4月から7月のはじめまで、休みはほとんどありません。ただし、司法試験の勉強までで培った忍耐力を以てすれば、困難なことはありません。

ぜひ、法曹ではなく行政官という選択肢も視野に入れてください。

法律の学修で培った技能を活かす仕事は、霞が関にもありますよ！

ちなみに、環境省には法科大学院を修了されたり、司法試験にも合格された先輩職員もいらっしゃいます。

論述については、時間も測って書く練習を増やすべきだったと思います。



モモ



ベンジャミン

民間企業を志望していない場合でも、民間の就活を少ししておくことをおすすめします。民間就活にはいくつかメリットがありますが、1番の理由としては、グループディスカッションや面接の経験によって場慣れすることができることにあります。院卒者試験では特に、上記のように政策課題討議があるので、役に立つと思います。

人事院面接（区分共通）



クスノキ

知り合いの先輩に模擬面接をしてもらった。

友人や予備校の先生などに数回練習をしてもらったうえで、よく聞かれる質問や自分で話したいことなどを事前にまとめていました。練習に付き合ってもらった回数は多いに越したことはないと思うので、特に親や先生など大人の人に見てもらえる機会を多く設けるのが大事だと思います。



サクラソウ



バラ

面接カードの深掘りについて備えました。人事院面接は面接カードに沿って質問されるので、面接カードの深掘りしておくことで解答を準備しておくことができ、本番であたふたしないようにしました。また、模擬面接を2回受け、事象の話し方や伝え方について確認しました。

公務員講座の先生に面接カードの添削をもらい、文章でもどういう人間か伝わるような面接カードにできるよう心掛けました。また、先生に部屋の入退室の方法や声の出し方、お辞儀など基本的な事を教えていただき、面接練習をしました。他の受講生とも受け答えの練習をしていました。



シロツメクサ



クロユリ

3回ほど友人や予備校で練習してもらい、これだけは良く聞かれる、という所だけすら出るように練習。

自分が聞いてもらいたいことを書いてるか、自分らしいユニークさを少しは伝えられるものになっているかという観点で面接カードの内容を確認。週1回は人と話す機会を作る(本当に図書館に引きこもって1人で勉強してばかりだったため)。

面接直前はテンションを上げて滑らかに話せるように待合時間は脳内でテンポの速い曲を再生しました。



コクタン

面接カードの添削をしてもらった。
また、想定問答を考え、実際に話
してみるようにした。

想定問答集を
作る。



サボテン



ハナミズキ

予備校の先生に面接シートの添削や、模擬面接をしてもらい対策していま
した。自分だけでは対策がしづらい分野だと思うので、客観的なアドバイ
スをもらうことで、改善していくことができました。また、自己分析をする
ことで、どのようなエピソードを話すかという点や、柔軟に質問に答えるこ
とに役立ちました。

対策というより、いろいろな人生経験を積むべきです。
勉強だけではだめです。リーダー経験、失敗経験などが典型質問ですが、
たいした話でなくても、大丈夫です。むしろ、その経験から何を学んだか、
どう乗り越えたかが大切です。面接カードはよく練りましょう。
話の内容を大学生活に限定する必要はありません（コロナでいろいろ制約
があると思うので。）。私自身も中学校の頃の経験でも、面接官に興味を
もっていただけました。人生は、大学生活だけに限定できないです。小学
校、中学校、高校、大学、大学院など、連なって構成されます。どの時
点の話でも本来は良いはずで。それが今に繋がっている限り問題ありませ
ん。なお、面接練習はしませんでした。



ガーベラ



モモ

教養試験に受かった人などに模擬面接を行ってもらい、話す練習や聞か
れるであろう質問への回答を行いました。

大学院でお世話になっている先生に面接練習をしてもらっていました。（人
事院面接の経験者あるいは人事院面接の面接官として携わっていたなど、
何らかの形で人事院面接の何たるかを知っている方に練習をしてもらうこと
が有効的だと思います。）



ベンジャミン

失敗談・不合格体験記

～内定者が伝えたい他の試験等での教訓集～



バラ

僕は、特別区の試験に一次で落ちてしまいました。総合職の法律区分で受験される方は、法律系科目は大変に勉強されると思いますが、経済系科目や政治学行政学等の勉強が疎かになりがちです。僕は経済系科目は一切勉強しておらず、政治学等も深くやらなかったもので、特別区の専門試験は半分程度色塗りになってしまいました。併願対策は、仕事内容と同様に試験科目もきちんと見るべきだったと後悔しました。

裁判所事務局の一般職に申し込むつもりが総合職に申し込みをしてしまい、2次試験が司法試験レベルだということで受験を諦めました、。。また、官庁訪問への不安が募り、地方上級の試験に集中できませんでした。先のことを考えすぎず、今100%を出し切れるような切り替えも大事だと思います。



シロツメクサ



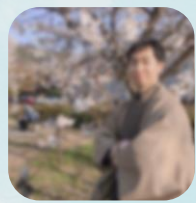
クロユリ

教養区分について 私の場合2次試験で落ちたのですがちゃんと全科目対策していけば教養区分1次試験は通ります。逆に、1次試験と同じような形で想定問答や知識でガチガチにコーティングしていった、知識をひたすら並べ立てて試験官の方に理解してもらえなかったため私は2次試験で落ちました。教養区分2次試験はコミュニケーション能力が見られる試験で、相手に理解してもらうこと・会話のキャッチボールをすることが何より大切です。教養区分合格を目指す方には是非そのことを胸に留めて同じ失敗はしないようにしてほしいです。

試験本番では緊張もありうまくいかないこともあると思います。私も教養区分では焦ってしまい上手く解けずに落ちてしまいました。しかし、その経験を活かして法律区分では少し落ち着いて解くことができました。試験では焦ることもありますが、焦りすぎず落ち着いて臨んでいただければと思います。



ハナミズキ



モモ

当たり前のことですが、ESは下書きをしっかりとってから丁寧に書きましょう。妙な改行をしてしまい、面接時に突っ込まれたことがありました。

IV. 官庁訪問

山梨県鳳凰三山縦走途上からの南アルプス



山麓の休憩施設で
出会ったリス

官庁訪問の概要

官庁訪問とは？

- ・国家公務員採用試験のプロセスは、試験の最終合格＝採用ではありません。具体的には、最終合格は、面接への切符を手にしたということに他なりません。そこで、改めて自分の関心がある省庁に面接に行く必要があります。このことを「官庁訪問」といいます。
- ・例年は、少なくとも3つの官庁に予約をいれることができます。この予約の受付は、最終合格の発表前に行うところも多く、訪問者は合格するかどうか分からない状態でいわば仮予約をいれることになります。
- ・具体的な日程やクール、訪問方法は毎年変更されますので、訪問年度の「官庁訪問ガイド」をご覧ください。

官庁訪問のスケジュールは？

6月									7月				
22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5
水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
第1クール			お休み		第2クール			第3クール		お休み		第4クール	第5クール
3省庁まで訪問可能					3省庁まで訪問可能			2省庁まで訪問可能				1省庁のみ	内々定解禁

<クールとは？>

官庁訪問は、1日で完結することは基本的にはなく、約二週間にわたって実施されます。（分かりやすくいうと、1日の中でも複数回の面接が実施され、さらに後日同じような形式で複数回の面接が実施されるということです）人事院では、その官庁訪問実施期間をいくつかのパートにわけて訪問先を制限し、訪問者に真に志望順位が高い官庁への訪問を促しています。この各パートのことを「クール」とよんでいます。

なお、2022年度（令和4年度）は、官庁訪問は5クールで構成されていました。上記の図のように、6月20日に最終合格者の発表があり、その後同月22日から官庁訪問がスタートします。そして、22日から24日を第1クール、翌週の27日から29日を第2クール、30日から7月1日を第3クール、7月4日を第4クール、7月5日を第5クールとしていました。

同じクールの中で同一官庁に訪問することはできません。また、第3クールからは「リセット」を採用しています。これは、それ以前の第1クールと第2クールの訪問順番を「リセット」し、訪問者の任意の順番で訪問することができます。例えば、第1・2クールの1日目（22日・27日）にA省、2日目（23日・28日）にB省を訪問した場合であっても、第3クールの1日目（30日）にB省、2日目（7月1日）にA省に訪問順位を変更することができることになります。

訪問者カード

- ・官庁訪問では、訪問者は「訪問者カード」や「面接カード」を記入し、予約時に各官庁へメール提出することがあります。このカードには、一般的な設問として、訪問者の学歴や専攻、課外活動、他省庁や民間企業等の併願先、志望動機などを書くことが多いです。
- ・このカードは、人事院が採用試験のプロセスで実施する人事院面接使用の「面接カード」とは異なります。したがって、各官庁独自の設問があります。なお、環境省は「訪問者カード」というネーミングです。

2022年度総合職事務系官庁訪問 訪問者カード (A面)						写真
試験区分	タブから選択	第1次試験地	タブから選択			
		第2次試験地	タブから選択			
		受験番号	XXXXXX			
ふりがな	かんきょう たろう					
氏名	環境 太郎					
略歴 (高校以降)	西暦	年	月	高校	卒業	
	西暦	年	月	大学	学部 学科	
	西暦	年	月	大学院	タブから選択	
	(前職があれば)				タブから選択	
学業 (ゼミや卒業論文・修士論文の内容等)				課外活動 (部活、サークル、アルバイト等)		
関心のある環境政策の分野				他の訪問省庁、民間企業その他の併願先		
志望動機 (例: どんな点に惹かれたか、入省後に取り組んでみたいこと等)						
あなたは、周りの人からどのような人と言われることが多いですか?						
あなたが他の人に何かを教えるときに心がけていることは何ですか? (具体的なエピソードを含む。)						
あなたがこれまでの人生の中で本気で取り組んだ物事を一つ挙げ、なぜ本気になったのかを述べてください。						
日本や世界の制度・慣行・態様などのうち、あなたが今後10年で大きく変化しそうだと感じるものを一つ取り上げ、それが10年後にどうなっていると予想するかを述べてください。						

<最後の設問について>

特色ある設問であり、難易度も高いと思われる一方、記入スペースが他のどの設問よりも大きいことがみてとれます。

模範回答はないと考えられ、実際に内定者間でも十人十色の回答でした。また、必ずしも環境や専攻分野に関係ない内容でも問題ありません。

内定者としてアドバイスするとすれば、①客観的事実と主観的意見・私見は分離すること、②論理的に記入すること、③なぜそう思ったのかを記入することは最低限必要と思われます。また、記入して終わりではなく、実際に面接において「どういうことですか?」と尋ねられることもありますから、回答の趣旨や経緯を説明できるように準備しましょう。

面接の種類

- ・ 官庁訪問は、短期集中で、1日に複数回の面接が実施されることが通例です。人事院ルールによれば、面接は、およそ9時に開始し、20時まで実施することができます。（ただし、特段の場合は、22時まで面接することができます。）したがって、途中で昼・夜ご飯を食べるという通常の面接では考えられない事態が起こり得ます。（が、環境省にはきちんと食堂やコンビニが備わっており、心配ありません。）
- ・ 面接には、およそ4つの種類があると理解しておけば問題ありません。具体的には、
①入口面接、②原課面接、③人事面接、④出口面接の4つです。特に②と③は、1日に複数回の面接が行われることも少なくありません。（具体的な質問内容は後掲）

入口面接 （5分程度）	その日はじめての面接。簡単に志望理由を聞かれたり、興味関心のある分野について質問される。ここで述べた興味関心のある分野に合わせて原課面接で相手となる職員を選んでもらえることもある。 ここでは発言内容を深掘りされることは少ない。ごく短時間である。
原課面接 （45分から90分程度）	基本的には担当職員による政策の説明・解説が中心。その途中で、政策に関する質問をされることもある。例えば、その政策の問題点や課題の解決策について、訪問者の私見を尋ねられたり、感想を求められたりすることも少なくない。逆質問の機会が与えられることもある。 原課面接は1日に複数回実施されることが普通。 もちろん、評価の対象になっているものと思われる。訪問者としては、説明や解説の理解度や関心度を応答を通して示すことになる。よく話を聞いた上で、素直に疑問点や意見を述べたい。
人事面接 （15分程度）	採用チームの担当者による面接。エントリーシートに関する質問だけでなく、それ以外のことについても質問される。例えば、時事問題や趣味・特技など広範な人物像が確認される。人事面接では、人柄や雰囲気チェックされていると思われる。一般の面接に近い質問については、想定される問答を事前に準備しておきたい。
出口面接 （5分から10分程度）	その日最後の面接。その日の気付きや志望度などについて聞かれる。 訪問者の評価が言われることもある。 結果的に訪問省庁とマッチング不成立となれば、次クールと呼ばれることはない。（したがって、その年にその省庁から採用されることはない。）反対に、暫定的にマッチング成立となれば、次クールの予約ができる。

* 時間はおよそのものであり、必ずしも画一的なものではありません。

官庁訪問中に聞かれた質問

人事面接

- ・就職先として国家公務員や環境省を考え始めた時期ときっかけ
- ・環境の分野に関心をもったきっかけ
- ・環境省の志望動機
- ・環境省で取り組みたい業務とその理由
- ・官庁訪問で訪問する3つの省庁を選んだ理由
- ・他の訪問先省庁の印象（第2クール以降）
- ・原課面接で学んだこと
- ・それまでの官庁訪問期間に学んだこと
- ・専攻分野や卒業論文のテーマについて
- ・環境に関するもの以外で、最近見た関心のあるニュースや本について
- ・「訪問者カード」に書いてあること以外で、趣味など好きなことについて
- ・逆質問（何か聞きたいことはありますか）

原課面接

○原課職員の担当業務の説明を受けて...

- ・話を聞いて気になったことは何か
- ・あなたがその分野の担当だったらどうするか
- ・その分野について国民への周知、説得はどのように行うべきか
- ・その分野で日本がとるべき政策の方向性は
- ・その分野について世界に対してどのようにアピールすべきか

○その他にも...

- ・環境省で取り組みたい業務とその理由
- ・官庁訪問で訪問する3つの省庁を選んだ理由
- ・環境省の志望動機
- ・環境に興味を持った経緯
- ・専攻分野や卒業論文のテーマについて
- ・働き方について何か疑問はあるか
- ・（院生に対して）研究者になる道は考えなかったのか
- ・今後環境省はどのようなことをしていくべきか
- ・これまで苦労した・精神的負担だったことは何か
- ・あなたの考える「守りたい環境」とはどういうものか
- ・現在の日本が抱える課題とその原因・解決方法は

官庁訪問中、心がけたこと

面接中

- ・ 面接官の目を見ること
- ・ 考えたことを自分の言葉で伝えること
- ・ 素直に何でも質問すること
- ・ 難しいことを言おうとしないこと
- ・ 着飾らず、素の自分で臨むこと（等身大の自分をアピールすること）
- ・ 面接官の名前と所属を覚えておくこと
- ・ 話をよく聞くこと
- ・ 自分の知識や経験と照らし合わせて考え抜くこと
- ・ 原課で一对一の説明を受けられることを貴重な経験だと認識すること

面接待機中

- ・ 原課面接の内容をまとめ（心動かされたポイントを書き留める）、後の面接で気付きを述べられるよう準備した
- ・ 志望動機を精査（練り直し）した
- ・ 面接のシミュレーションをした
- ・ 待合室で他の訪問者と雑談してリラックスした
- ・ 白書の概要版を読んだ
- ・ 採用パンフレットを読んだ
- ・ 待合室の職員の方とコミュニケーションをとった

休日の過ごし方

- ・ 友人と出掛け、美味しい食事をした
- ・ 早寝早起きで心身ともに安定した状態にした
- ・ 新聞を読んだ
- ・ （官庁訪問のことから頭を離すべく）アルバイトに勤しんだ
- ・ ホテルに缶詰になるのではなく、外出した

官庁訪問期間中のあれこれ

官庁訪問期間中の反省点

- ・ 環境問題以外にも関心をもつこと
- ・ 私見を即座に述べられるように整理しながら話を聞くこと
- ・ 疲れを取り去ること
- ・ 官庁訪問開始前日に睡眠時間が確保できるように余裕をもって対策をすること
- ・ メンタルを維持すること
- ・ ミスを引きずらないこと
- ・ 抽象論で話さないこと
- ・ 関心のある政策分野以外もリサーチしておくこと
- ・ メモ帳を読めるように記入すること
- ・ メモを取り過ぎないこと
- ・ 面接官の目を見ること

服装や持ち物のアドバイス

- ・ うちわや扇子を持参すること
- ・ 汗拭きシートを持参すること
- ・ 軽く食べられる物を持参すること
- ・ 複数枚ワイシャツを用意すること
- ・ 第3クールでジャケットの着用の指示があったので、地方から在京する場合はジャケットを持参すること（なお、指示がない場合にはジャケットやネクタイは着用しなくとも問題ありません。実際にワイシャツ・ノーネクタイでも内定を頂いています。）

官庁訪問に向けてやっておいて役立ったことは？

○直球編

- ・ 説明会に参加した
- ・ インターンシップに参加した
- ・ 採用パンフレットを読んだ
- ・ 白書（の概要版）を読んだ
- ・ 新聞を読んだ
- ・ 志望動機を練った
- ・ 「訪問者カード」を練った
- ・ 面接の練習をした

○変化球編

- ・ 霞ヶ関志望者の友人を作り情報収集に励んだ
- ・ 様々なコミュニティに属し様々な人と交流することで、自分を相対化し、自分の特徴を知るようにした
- ・ 人の話を聞いた際に、自分の考えや疑問点をまとめるようにしていたことが原課面接で活かされたかもしれない
- ・ 自分は職員の方に比べて政策について無知だということを認識するようにした
- ・ 官庁訪問が始まる前に、官庁訪問に行ってどのような情報を得たいのかを明確にした

○説明会の活かし方

- ・ 仕事内容や省庁の雰囲気を知った
- ・ 自分が環境省でなにをできるかを考える参考にした
- ・ 官庁訪問直前の採用担当者の説明会に参加し、官庁訪問に関する形式面の疑問を全て解決した
- ・ 一度は対面の説明会に参加し、環境省への行き方や駅の出口等を確認した
- ・ 説明会では聞ききれなかったことで、官庁訪問で聞きたいことを考えた
- ・ 直前期にはそれまでに参加した説明会のメモを読み返し、自分が考えたことを整理した

○白書を読んで...

- ・ 関心があるトピックを深掘りしておく
- ・ 関心外分野について浅くでも理解しておく

○新聞を読んで...

- ・ 志望省庁に関係のある記事を注意深く読む
- ・ 記事について疑問点を洗い出す
- ・ 記事で扱っている問題について、どういうことをすべきか考える

○志望動機や「訪問者カード」を練る際には...

- ・ 志望動機を固めるのは直前にならないようにする
- ・ 先生や友人など、できるだけ多くの人に添削してもらう
- ・ 「訪問者カード」の内容や、想定される質問の回答に対して「なぜ？」という質問を自分で繰り返し投げかけた

○面接の練習では...

- ・ 直前期に友人と模擬面接をした
- ・ 自分の売り込みポイントをスムーズに話せるようにした
- ・ 面接カードに書いた話を論理的に伝える練習をした
- ・ 省庁にかかる想いや政策についての意見などを、他人に自分の言葉で説明する機会を設け、客観化した

官庁訪問について皆さんへのアドバイス

・特に環境省の場合は訪問順=採用されやすさ、ではないと思います。私の場合、第1クールと第2クールは3日目に回りましたが内々定を頂くことができました。大切なことは官庁訪問以前に学んだことだけでなく官庁訪問1日目・2日目までで学んだことも土台にして環境政策を見て考え、その視点を伝えることだと思います。私の場合は前日に訪問していた公正取引委員会の競争政策とグリーンニューディールの関係という視点を持って環境省の官庁訪問に臨みました。3日目訪問はそのため材料集めの時間がとれるアドバンテージだったとさえ思っています。あくまでこれは一意見ですが、訪問順に悩んだらこのようなマインドも思い出してくれるといいのかな、と思います。

・あくまで個人的な意見ですが、オンラインで官庁訪問をされる場合は、どれだけ些細でも良いので何らかの形で「いつもと違う」環境でパソコン等に向かうことをお勧めします。適度な緊張感をもつことができるので。私の場合は、パソコンを置く机の位置を変えていつもと違う部屋の様相にして、“特別感”を演出していました。

・面接の回数や訪問先職員の年次・役職が、自身が採用ルートに乗っているかを判断する材料となる、という官庁訪問の都市伝説があります。しかし、少なくとも環境省にはそのような伝説は通用しないように思われました。人事面接の回数も人によって異なるようです。また、役職や年次も、段々と上がっていくというような形ではなく、その都度で上下していく形でした。（自分が伺いたいと述べた分野の職員に会わせていただくことも多いので、むしろ当然です。しかし、必ずしも希望が叶うわけではありません。）

・環境省訪問者としては、やはり環境分野のホットピックへの意識が重要です。例えば、2050年カーボンニュートラルやカーボンプライシングなどの語句とその意味、環境配慮行動の在り方は予め把握し、私見をまとめておくと、原課面接で役立つと思われれます。（いずれにせよ、パンフレットにあるようなテクニカルワードは、調べておいて損はありません。その省の「売り」が書かれているわけですから、当然です。）

・官庁訪問直前期は不安が募ると思います。しかしどれだけ直前で準備しても、官庁訪問では素の自分しか出せませんでした。いつでも自分の考えを話せるよう、日々の出来事に対して考えを積み重ねていくことが大事だと感じました。一生に一度の機会、適度に緊張して楽しんでください。

・就活全般に言えますが、採用面接は試験と違って、その就職先との合う合わないが必ずあると思います。選択肢を増やしつつ、官庁訪問の際はそれを通してどこの省庁と自分が合うのか考えるとういと思います。

・やりたいことが決まっていることはもちろん素晴らしいことだと思いますが、幅広く他の省庁や民間企業等も就職活動の特に最初の時期は見ておくことをおすすめします。最初から〇〇省が一番と決めて、他の省庁や企業を見ないでいると、直前になって他の選択肢があったのではと不安になることも考えられるからです。私自身、他の省庁や企業の説明会などに参加することで、選択肢を削ることができたり、自信を持ってこの省庁で働きたいと思うことにつながったと思います。ぜひ、官庁訪問も含めて様々な省庁も可能な範囲で検討して、納得のできる選択ができることを応援しています。

・説明会に行っていなくてもなんとかなります。自分と素直に向き合い伝え切れるかどうか全てです。頑張りましょう。そして、辛い時には音楽を聴いて気持ちを整えましょう。僕のおすすめは尾崎豊です。中でも“優しい陽射し”と“風の迷路”です、ぜひ。

V. 座談会

オトメツバキ
京都府京都市伏見区にて撮影



トークテーマ1

イメージする働き方

メンバー



サクラソウ



モモ



コクタン



サポテン

働き方に関して、就職活動で決め手にしていたポイントは？



コクタン

あえて気にしていたことといえば、ずっと東京で働くということのない仕事を選んでいました。希望を出せば海外や地方で働くことのできる職種は決め手だったかな。加えて、環境省はちょうど今年の採用担当の男性職員が育休をとっていて、そういったところに理解のある職場であることが説明会などで実感できたのは好印象でした。

民間でも総合職を見ていたし、勤務先は特に決め手ではなかったな。



サポテン

一番にやりたいことで決めていたところはあるかな。



モモ

転勤は他の仕事でもあるけど、最終的に東京に戻ってくるという働き方が良いなと感じている。転勤は普段住んでいる場所が固定化されないイメージがあるが、本省との行き来という移動の仕方であれば、帰る場所がないという不安が減ると思う。福利厚生は入ってみたいとわからないなというイメージ。



サクラソウ

国家公務員に残業のイメージは？

環境省と他の省庁（あるいは昔の働き方）を比べた時、残業が多いというイメージはある？



サポテン

環境省の説明会では省庁の中では比較的少ないと聞きました。残業代はしっかり払われる、など改善はしてきているそうです。ワークライフバランスという面で調整しやすいのかなというイメージがあります。

確かに、以前までの省庁のイメージよりは「変わっていいこう」としている流れがある気がする。



サクラソウ

他省庁よりは少なそう。職員の方と話していて、遅い時間になるとかはあるんだなと知ったね。でも、変わろうとしているのは官庁訪問などを通じて感じているし、省としての売りにしている気がする。他の省庁に内定もらった人と話していても、環境省が少ないのは先輩の方々が頑張っているからじゃないかと言っていた。きっとまだまだ改善の余地はあるのだと思う。働くに当たっても、そういったところに目を向けられるようにはしたい。



モモ

国会のある時期や法改正の担当など、忙しい時期はある程度事前にわかりそうだから予測がつく分にはいいかな。他の人も言っていたけど、改善しようというマインドを持っている所は良いなと思っていて、そういう人たちと働けるのだなというポジティブな印象がある。残業の様子などは対面の説明会に参加した時にも何となく感じられたな。



コクタン

日本は未だに、「長くいること＝何かにコミットしている」という考えが残っている気がする。職場でこれが助長されるような雰囲気にはしたくないな。

テレワークしてみたい？



サクラソウ

どちらかと言えば霞が関で働きたい。職場での些細な会話の中に得るものがあると思うし、性格的に家で仕事できるのかがわからない。それでもしたいと思うタイミングはあると思うので、そのタイミングでちゃんとできるという環境があることは魅力的だなと思う。ワークーションなどは実態を掴み切れていないけど使ってみたいという興味はある。職場以外で働くのはサブ的な感覚がある。

自分も最初の数年はわからないことも多いだろうから職場で働きたいな。自然が好きなのでワークーションには興味ある。ずっと同じ風景の中で働くのも煮詰まっちゃいそうだし。



サポテン

直接顔見てコミュニケーション取るのが大事だということをこのコロナ禍で感じた。でもできるならテレワークやワークーションもしてみたい。もし子どもが生まれたら、子どもが小さいときは柔軟に働ける方が良いかな。

そばにいいながら仕事ができる環境があれば良いですね。



コクタン

テレワークの良さはやってみてわかるのかもしれない。家にいるからこそできる形で、昼休みなどに自由な気分転換もし易そうですね。

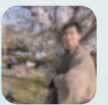
環境省ではフリーアドレス化がどんどん進んでいる。皆さんはどう思いますか？



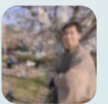
コクタン

固定化せずに、自由に場所を変えられるといいな。他の人の名前覚えられるかな。

フリーアドレス化するにあたって紙の媒体が減るのじゃないかな。書類の山が減ることで働きやすくなるのかもしれない。



モモ



モモ



サポテン

公私の充実のため、休日にやりたいことは？20%ルールについて思うことは？



モモ

自分は今やっている武道を今後も続けたいと思っている。仕事終わりや休みの日にふらっと行きたいなと思ってる。

現在地域のスポーツクラブに参加しており働き始めてからもそこで続けたいと思ってる。他の省庁の人やそれ以外の人とのつながりは社会人になっても大事にしていきたいな。省庁の中にもフットサルサークルがあるらしいのでそこにも参加してみたい。



サクラソウ

都心から離れた、自然に近い場所に住んで気晴らしに足を運んで過ごしたい。他の趣味も探していきたい。20%ルールは利用してみたい。性格上自分の仕事以外のことも気になっちゃったりするので。

日常生活も丁寧に生きたいなと思う。自炊とか買い物とか。そういうところに時間を割けるような働き方をしたいな。



サポテン



コクタン

トークテーマ2

サマトラ、インターン

メンバー



ツバキ



ハナミズキ



クスノキ



ベンジャミン

申し込んだきっかけ、時期、（ある場合は）受け入れ課室は？



ツバキ

官庁訪問の1年前（修士1年）のサマトラに申し込み、参加した。エントリーは、就活サイトのシステム経由で、字数も数百字程度と少なく、手続きが簡単だったため、気軽に申し込めました！

もともと環境省に興味があった。説明会に参加していたが、どんな方がいて、どんな仕事をしているのか、イメージし切れていない、と感じていた。インターンに行くことで、実際の仕事の現場で、どんな思いでどんな仕事をしているか、肌で感じて理解できるかなと思い参加した。大学の秋休みを利用して、2021年11月末～12月初旬の1週間の日程だった。受入課室は、地球環境局の3つの課で、地球温暖化対策課、国際連携課、総務課にお世話になりました。



ハナミズキ



ベンジャミン

政策企画立案に内部から直接関わりたかったため、大学院1回生の夏に、所属する公共政策大学院を通じて応募して参加しました。環境政策に興味があり、環境省を希望し、期間中、いろいろな課室でお世話になった。包括的な政策企画立案プログラムで、オンライン5日間に、気候変動や資源循環などがミックスされていました！

ベンジャミンのきっかけが特殊に感じた！政策立案を内部で行うためという理由にびっくり。仕事自体に興味があったのか、政策を勉強したいと思ったためなの？



ベンジャミン

所属する大学院が公共政策大学院という分類で、公共セクターに関わる機会が多くて。公務員に限らず、シンクタンク、民間の研究所などの民間セクターとも機会があったけれど、直接間接で言うと間接にあたる。一方、社会実装は政府・公務員の仕事、になる。官庁の人と話しながら内部から直接的に体験できるのではないかな、と思って。

きっかけは、ハナミズキと似ていて、説明会を聞いていても雰囲気はオンラインでは伝わらず、課室の職場に実際に入らせてもらって、どんな方が働いているのか、どんな内容の仕事をしているのを肌で体感したい、という思いで申し込みました。受入課室は地球環境局総務課脱炭素社会移行推進室で、時期は、3年生の春休み実施のつもりで応募し、コロナの関係で2日間に短縮したものの、お世話になりました。



ハナミズキ



クスノキ



ツバキ

形態は、ハナミズキとクスノキのようなHP掲載の個人で申し込むもの、サマトラ、ベンジャミンのような大学院経由のもの、の3種類、いろいろあるんだね。

どんな内容だった？



ツバキ

参加時のサマトラは、オンラインで2日間の日程で、テーマは福島復興に関することだった。両日とも時間はおよそ10-18時。1日目の午前は、採用担当の方から、環境省組織紹介、政策概要説明。午後は、福島地方環境事務所と繋いで、説明を受けたり、web見学で事務所を見せてもらったりして情報収集をしました。1日目の15時半に、最後の政策立案の課題が提示され、5人くらいのグループに分かれて話し合って、1日目終了。2日目は、事務所の次長職の方から30分の基調講演を聞く。昼までグループで準備し、15時から課題発表を行い、講評をいただいて、終了した。課題のテーマは「福島復興に向けて国民の理解醸成を進めるために効果的な施策」で、「①除去土壌の再生利用の観点から」「②未来志向の観点から」の2点を考えました。

私のインターンでもグループワークがあったけれど、グループワークではアイデアが重視された！特に未来志向で良いアイデアがないか、グループでアイデアを出して、ひとつにするのは難しくない？どんなアイデアになった？



ベンジャミン



ツバキ

まずオンラインでグループで話し合うのが難しかった。考えるべきポイントを1日目に出して、1日目終了後も宿題として各自アイデアを考えてきて、2日目の朝にみんなで出し合って、話し合って決めていった。実際の発表内容は、1つ目の課題に関しては、除去土壌の再生利用事業への寄付に対して、バッジ・ステッカーを付与するという政策案を出した。2つ目の課題については、福島は水素の先進的な実証事業を進めていたりするので、中間貯蔵施設跡地でのエコタウン構想を提案した。

私が参加した際の内容は主に3つで、1つ目は、原課面接のように、職員の方から仕事や政策について説明を受けたり質問したりする時間。2つ目は、企業視察への同行や、オンラインの国際会議の見学など、仕事の現場についていく時間。3つ目は、自分の学びの成果発表。学んだことをスライドにしてお世話になった方に発表した。2つ目を詳しく言うと、環境ビジネスをしている企業を視察する仕事が環境省にはあるらしく、建物などの空調システムの企業を訪問した。また、国際会議の見学では、国際的な仕事の様子も知ることができた。他にも、他国の政策文書を読み、省内向けに簡潔にまとめる仕事も模擬で行った。



ハナミズキ



ベンジャミン

私が参加したプログラムは5日間の日程で、1日目～4日目は、2部構成で、午前は、いろいろな課室の人が政策を説明し、午後はグループワークをした。5日目は、YouTube Liveで大臣の記者会見を見たり、総括して講評をもらったりした。グループワークは2種類あった。1種類目は、最初の3日間かけて、気候変動対策の政策にかかる立案を資料作成まで行い、水素自動車FCV普及への政策について発表した。2種類目は、資源循環がテーマで、家電回収方法をどう変えるか、もしくは、変えないべきか、を議論した。2種類のグループワークをしてみて、内容が違うのはもちろんのこと、結論の出し方が、前者はアイデアベースであるのに対し、後者は現状のステークホルダーの関係に鑑みて、変革させるべきか否か、どう折り合いをつけるか、難しかったな。

グループワークがあったということは、プログラムは何十人かいたの？



クスノキ



ベンジャミン

全体としては20人くらいで、グループは各3~4人だった。ただ、私の大学院からたくさんの参加者がいて、同じゼミの人もいて、環境省感があまりなかった。大学院でのディスカッションみたいになってしまった面も。でも内容も楽しかったし、人事担当の職員の方も登壇してお話を聞いたのは良い機会だったな！



クスノキ

ハナミズキと私は、1人ずつの申し込みで、同じ期間にインターン生はひとり。大勢で行くと、知り合いもいれば既知の人もいて、状況が違うのかなと思う。

お昼ご飯を職員の方と一緒に食べさせてもらった機会が毎日のようにあった。個人で行ったからこそだと思うが、良かったな。ベンジャミンは？



ベンジャミン

オンライン開催で家で他の参加者ではなく、ひとりでお昼を食べていたな。

私の参加したインターンは2日間で、私自身から何かを作るより、お話を聞く場面が多かった。大枠としては、ハナミズキのパターンに近かった。半分以上が、原課面接みたいなお話を聞かせてもらう場面。脱炭素室主催の専門委員会YouTube Liveを聞く場面もあり、最後、数ページのレポートを書いて提出した。専門委員会関連のエピソードは、インターン2日目に開催で、委員会前日（インターン1日目）の様子を見てみると、職員の方が、登壇予定者に対してブリーフィングをして、委員会当日を迎えていた。前日からの流れを傍目に見つつ委員会当日を聞いたのは、職場に行かせてもらったからこそだ、と感じる。



ハナミズキ



クスノキ

ブリーフィングは馴染みのない言葉だけど、何のために、何をしていたの？

横で聞く限り、打ち合わせで、委員会当日使う資料、段取りを説明していた。当日に資料を初めて見て意見を求められても登壇者の準備が追いつかないから、事前に流れや状況を説明したうえで、当日に臨むのだなと横目で感じていた！



ハナミズキ



クスノキ

環境省や世界の状況についての理解の土台を合わせるものなんだね。



ハナミズキ

参加後の影響は？



ツバキ

私は、福島関連の政策の内容、規模、現況についてあまり詳しくなかったが、サマトラはそれに特化した内容で、興味深く、様々な学びがあった。環境省としても、職員個人単位でも、福島への大きな思いを持って仕事をされていることがわかり、その一員になりたいという思いが芽生えたのは良かったな。また、どうしても学生が考えつく範囲での理想論のような発表内容になってしまうが、現実を理解した職員さんからのフィードバックをもらったため、実際に働く際に考えるべきことを知ることができた！

学んだことは、国家公務員の仕事と、環境政策についてが主な学び。前者は、インター前は国家公務員はジェネラリストで、専門性があまり高くないイメージだったが、「自分が担当する内容に日本一詳しくないといけないという意識を持っている」という、職員の方の言葉が印象に残った。ジェネラリストでもあり、専門性も高いのは、当初のイメージとのギャップを感じた。また、国際会議の見学や企業視察を通じ、国家公務員の仕事は、様々な人を巻き込むことが大事だと感じた。国際会議の交渉も、多くの話合いの積み重ねが、結果につながることを学んだ。後者の環境政策の学びに関しては、国内、国際の部署の両方でインターンしたことで、国内と国際が両輪で動く重要性を感じたな。さらに、環境省に入省したいという思いで参加したが、環境省の方から、「環境省に限らず企業等他の選択肢も見て」と言われ、民間企業の就活にも力を入れたことに繋がった！



ハナミズキ



ベンジャミン

インターンを通じて、国家公務員・環境省職員として、どのような心構えを持つべきか、を学んだ。その効果・影響は、自分がもっていた公務員や環境省職員のイメージと対比したり、他の職種と比較して、志望理由を補強・精錬させていくうえで役立ったと思う。具体的に言うと、グループワークを通じてわかったのは、国家公務員としては、目的・目標さえ達成すればいい、ではなくて、現存システムの脱構築の部分、構築だけではない部分、も見なければならない、ということ！

冒頭の質問で言っていた、職員の方の雰囲気を知る、政策を学ぶ、という目的を達成できたのがやはり大きい。前者は、夏休みは別の省庁のインターンに行っており、他の省庁と比較して環境省はどうなのか、考えることができたのは良かった。後者の政策について知る点では、脱炭素室が全体計画のとりまとめの部署であり、お話を聞かせてもらって、全ての分野で、温室効果ガスの排出をゼロへという状況を改めて確認して、それに携われる環境省は非常に良い場所だと再認識できたのはすごく良かったなと感じた。



クスノキ

インターンシップに参加するか迷っている人に一言！



ツバキ

サマトラは、就活サイトから簡単な手続きで申し込めた。2日間かつオンライン形式(※)で、負担が軽いのに、その分野について深く考え、詳しくなれる。予定が合えばぜひ！

(※) 2021年度の場合。最新情報は公式HPをご確認ください。

公共セクターを考えている、あるいは、環境政策に関心があれば、四の五の言わず、申し込めば何らかのメリットがあるので、参加したらいいと思う。手続きも私の場合も煩雑ではなかったし、一般向けに公開されている手続きでも、インターンなので経験として、エントリーを出してみるのがいいと思う。



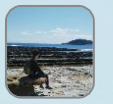
ベンジャミン



クスノキ

私自身もやはり、もしチャンスがあればぜひ行ってほしいと思う。自分が将来働く可能性がある場所を、実際に自分の目で見るという経験は絶対にいいと思うし、進路選択として可能ならした方がいい。チャンスがあるならぜひとも。

確かに、進路選択としてどんな仕事をしているのか知ることの重要性は、就職活動を終えて実感している。説明会ももちろん大事だと思うけど、納得感をもって、就職活動で進路を選択するために、どんな人がどんな仕事をしているのかを知るのは、役に立つと思う。もしタイミングがあって、やりたいという思いがあるなら、ぜひ挑戦してほしいと思う。



ハナミズキ



ツバキ

もう1点付け足したい！サマトラはテーマが決まっているけど、興味がない場合でも、入省後は、関心が小さかった仕事を担当することもあるし、興味があり既知の場合でも、事前知識があるから参加する必要はないと決めつけてしまうのはもったいない。内容への興味の有無に関係なく、どのテーマでも参加してみると収穫があると思います！

トークテーマ3

関東以外の出身者

メンバー



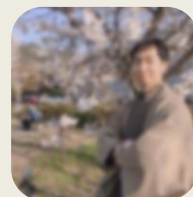
ガーベラ



シロツメクサ



クロクリ



モモ

地元から離れた、東京がメインの職場となる国家公務員を目指したきっかけは？



シロツメクサ

私は国家公務員より環境省を目指したのが先でした。東京に行くことにはなりますが、働く場所は自分の中で重要な問題ではなかったです。どこで働くかよりも、本当に働きたいところかで決めました。環境問題は規模が大きな問題で、地域でやるというよりも国の中でやりたいたいという思いが強かったため、総合職を選びました。



モモ

法科大学院に進学したため、法律家是一个の進路の選択肢でしたが、特定の人のため、というより、広く一般のために仕事がしたいと思うようになりました。まずは国家公務員を目指し、環境法を院で勉強したことから、その環境という軸を武器にして働きたいと考え、環境省を志しました。



ガーベラ

絶対に東京で働きたくないと思っていないからこそ、選べたのかもしれない。



シロツメクサ

逆に、環境省でキャリアを積み上げていくにしても、東京でずっと働きたいというより、地方出向も積極的にしてみたい。



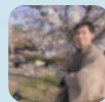
クロクリ

働く場所にこだわりはないよね。いろいろなところに行きたいと思ってる。



クロクリ

皆さんは地元から離れることに躊躇ないですか？



モモ

高校の頃から地元から離れた場所に通っていたし、大学でも居住を変えたのであまり躊躇なかったですね。

自分もあまり寂しさを感じないかな。新しいとこに住める楽しみがあるし。



シロツメクサ

出向などで地元に戻ってくるのはどう思う？



ガーベラ

それは純粋に嬉しい！



シロツメクサ

国家公務員を目指すにあたり、関東以外だから困ったことは？



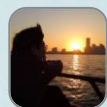
モモ

説明会で東京に行った人いますか？

1回だけ行った！



シロツメクサ



ガーバラ

えらい(笑)。今はオンラインでも通用するようになったのは、地方出身者でもありがたいですね。地元で環境省事務系の説明会が無いこともあったので、対面の説明会の機会は、東京が有利であることはあるかも。

毎年5月に環境省の説明会が京都であって、対面で職員の方とお話しできるので、無理して東京に行かなくて良かった。



クロクリ



シロツメクサ

対面で参加した自分としては、環境省の説明会はオンラインでも対面でもその後も含めてどちらでも関係ないとわかりました。オンラインで参加していたことに対してあまり不安はなかったな。

インターンの場合、職員の方と直接1対1で話す機会が多いので、お互いのことを知りやすいが、説明会の場合はどちらでも関係ないと感じましたね。



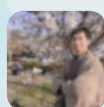
モモ



シロツメクサ

職員の方の雰囲気を知れる機会が一回でもあれば大丈夫だと思います。

直接会った方が良かったところもあったのかな？



モモ



シロツメクサ

そうですね。官庁訪問でいきなり行くのは、ちょっと不安だった……。前もって行っていたことが安心材料になったと思います。付け加えると、対面で採用担当の方とお話しできる/質問できる場面で、名前を覚えてもらったことがあり、嬉しかったです。モチベーションが上がったのは、オンラインよりも対面の説明会で感じました。

試験については、他の公務員試験との併願で、大変だった点がある。私の場合、関西実施の試験の次の日に東京実施の試験があるなどして、移動が大変だった。



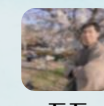
クロクリ



シロツメクサ

試験本番でなくとも、参議院事務局の試験が国家総合職の2次試験の勉強真っ盛りの時期にあって、東京に行くのが体力的にしんどかった。
それと、国家公務員志望の人やなった人が身近にいないし繋がれなかった上、体験記もなくて不安なまま臨んでいた。職員訪問とOBOG訪問はオンラインで2回くらいやり、雰囲気は掴めたが、実際の官庁訪問の様子はわからず、事前に知ることができたらよかったかな。

職員訪問などは仕事系の話がメインになるので、試験系の疑問は聞きづらいよね。



モモ



シロツメクサ

例えば、どれだけ繰り返して参考書の問題を解いたかや、記述対策をどうやったかななどの細かい情報は聞けなかったです。心構えなどを聞いて参考にできたけれど、1、2年前に試験を受けた方からも聞くことができたならもっと安心できたかも。



シロツメクサ

試験対策はどうしていましたか？つてがないと参考書に頼るしかなかったですか？

筆記は、参考書を買って勉強していた。官庁訪問対策は、先生に面接カードを添削してもらっていました。他は、大学の公務員講座を受けていたので、先生から聞いたり、受講生で相談したり、励ましあったりしていました(笑)。



シロツメクサ

利用できるものをしっかり利用しつつ合格できたのは素晴らしいですね。

添削の機会はほとんどなかったけど、書き方の型さえわかれば問題なかったです。だから、不安になりすぎず、先生をはじめとしたいろんな方に頼ってほしいと伝えたいです。



クロユリ

試験の問題自体はロースクールでの学習でカバーできるので、困ることはなかったです。日程について、私の場合は、司法試験もあったため休まることを知らず、ということがあり、ロースクールの学生が受けるとなると、そういう大変さがあると思います。公務員試験は、在学中に先に受けておくということもできるかな。ロースクールでは、みんな法律家を目指すので、周りに公務員の勉強をするという人はいませんでした。つてもなく、書店で売っている官庁訪問に関する本を読んで、人事院が出すガイドを熟読しました。面接カードも独学なんですよ(笑)

地方勢というと、周りに受験仲間が少ないけれど、院卒区分試験の討議試験はどうしていましたか？

要は、しっかり議論をすればいいというのが討議試験の目的なのかなと思っているので、授業中の発表であったり、部活サークルでの会議を思い出しながら、こういったことを言えば、議論が進んだか、まとまったか、を思い出しながら、受けました。実際、討議試験を受けていても、それほど困ることはなかったな。



ガーベラ

地方勢ということで第1クールをオンラインで受けた人もいますが、感触はどうでしたか？

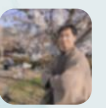
やはり、官庁訪問のガイド見てもオンラインで不利に扱わないようにとしているが、実際そうなのか、受けている方は不安だったりする。第1クールがオンラインだった自分としては、心配いらないよと言いたい。

第1クールオンラインでのやりづらさがありましたか？

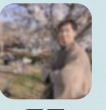
オンライン上の待機室がなく、規模感がわからないので受験者の変化がわからないし、第2クールで見た職場の雰囲気もその時はわかりませんでした。いつ終わるのかわからないという点もありました。でも、家にいて、電話を待っている間はゆっくりできるという利点がありました。内定者のブックや官庁訪問パートを見ていると、人の目を見て話すのが大事と書いている人が多くて、オンラインだと動きや表情は、実際に現場でお会いする時と違うテクニカルな部分の意識が必要なのかなと正直思いますよね。例えば、対面だとマスクして目元だけ、口元の様子がわからないけれど、オンラインだと笑ったり、真剣に聞いたりりがわかる。表情を伝えやすいというメリットがある。テクニカルな部分を意識できると、オンラインの面接で、官庁訪問に限らず話したり聞いたりで重要なかなと思います。



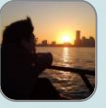
ガーベラ



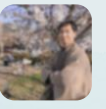
モモ



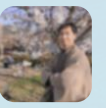
モモ



ガーベラ



モモ



モモ

自分がオンラインを選ばなかったのは、オンラインだと話辛いなというのがあったからです。職員訪問でオンラインの機会が1回ありましたが、話辛いとおもいました。自然体で話しやすいように話すのが大事だと思う、地方に住んでいながら、行くことをチョイスするために、時間あるなら、訪問でオンライン、対面、の両方を試してみて、自然体で話せる方を確かめてください。



クロユリ



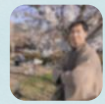
ガーベラ

たしかに、面接なので相手にどう思われるのかはいかんともしがたいが、クロユリが言っていたように、事前に準備してみることがいいと思う。

官庁訪問期間は地方出身者も東京で過ごすことになるが、皆さんはどうメンタルケアしていましたか？私の場合は、第1クールまでは兄弟の家にいたので、否応なく人と話す時間があり、結果的にプラスになったと思ってます。



クロユリ



モモ

私は基本ホテルで一人でした。友人と会ったのは、第3クールが終わってからの週末でした。2日目に同じ省庁を受ける人がいて話せることもあったが、滞在していた部屋では1人でした。

友人が一般職を受けていて、自分も併願していたので、対面で行き、総合職の官庁訪問後も友人と一緒に東京に残ると心に決め、マンスリープランを予約しました。友人3人と一緒に過ごしたおかげで、自分が精神崩壊していた時も切り替えて面接に臨むことができました。



シロツメクサ

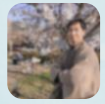
大事ですね。

メンタルケアの点については、それこそ、第1クールで落ちたら、それはそれで仕方ないという気持ちで臨んでいました。第1クールを突破できたことで、第2クールは自信をもって臨めました。面接で落ちるのはしかたない。クールごとに考えを変えてみるのもありかな。



ガーベラ

自分は一人の時にずっと次に聞かれそうな質問を考えていた。考え抜くことで、自分はここまで考えてきたという自信につながっていたし、落ち着いて喋ることができた。ルーティン的な面では、ホテル滞在の間もいつも通りお風呂はしっかり湯船につかっていました。



モモ

ホテル選びで気が付いたこととかありますか？



ガーベラ

食費も結構かかるので、近くで安く買えるスーパーがあるかも大事だと思う。

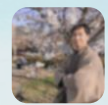
洗濯機があるかどうかも大事。自分の泊まったホテルにはなくて、コインランドリーも遠かったんで、浴槽に洗剤入れて洗ってた。



シロツメクサ

身だしなみという意味でも衣類は大事ですね。

僕はアイロンも持っていった。どこまで気にするかどうかは自分次第なので、そのための準備は大事ですね。



モモ

これを持って行かなくて大変だった、またはこれを持って行って良かった、って思うものはある？

革靴以外の靴。ホテルの部屋から出て何かするときにずっと革靴履くしかなかったので辛かった。



クロユリ



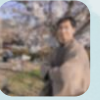
ガーベラ



クロクリ

自分は環境省のパフレットを忘れた。他の省庁のものは持って行っていたのに。

ハンガーとか持って行った。



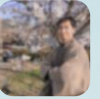
モモ



ガーペラ

結局東京なので何とかなるので。自分はジャケットもっていかなかったので銀座で買った。急にジャケットが必要だと言われて大変だった。お金をしっかり持っていくことが大事だった。第3クールまで行けた人の宿命でした。

ホテル暮らしが長引くので、自分の部屋に近いような空間にして過ごすというのも大事なかも、枕持っていくとか。



モモ



クロクリ

あまり同じホテルに居続けるのもしんどいから、ホテルを変えながら過ごすのも良いのかも。

荷物をまとめるのが手間であればアリかもしれませんね。長く泊まりたいなら早めの予約も大事。



モモ



ガーペラ

コンビニが近くにあると安心。

地方出身者の受験生に向けて一言！



モモ

情報が少なくとも自分から取りに行くという姿勢。性格的に地元にはこだわらない人が多いのかな。

試験受けようと思う人が少ないし、東京へ働くということに抵抗があったりするかもしれないけど、まずオンライン説明会とかに積極的に行ってほしいし、時間があたら遠出して対面の説明会にも参加してほしい。それと、OBOG訪問での経験があったからこそ官庁訪問では緊張してありのままの自分を出せたので、ぜひ何度も申し込んでほしい。



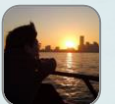
シロツメクサ



クロクリ

ひとことでいえば、住んでいる所に関わらずやりたいことをやってやれということじゃないかな。地方出身だからこそ、関東勢よりも積極的に動かなきゃ、と思えるからこそ結果的に機会が増えて偶然の出会いにあたりやすくなる。是非やりたいことを追い求めてほしい。

自分はあまり説明会やOB訪問も行けなかったが、そういう場合でも自分のやってきたことに自信をもって一喜一憂することなく突っ走っていくしかないですね。



ガーペラ

VI. ある内定者の心の内



桃の花
内定者の実家にて

官僚という選択肢を選んだきっかけはなんだろうか。昔から官僚という職業に憧れを抱いていたし、僕の夢でもあった。だけれども、官僚に憧れた明確なきっかけは思い出せない。何かはっきりとした理由があればカッコいいのだけれど、それを叙述することはできそうにない。でも、僕の中には、ずっと気に掛かることがあった。

今から遡ること11年前、僕の母親はこの世を去った。原因は癌。当時の僕は知らなかったのだが、体のあちこちに癌は転移しており、余命いくばくかという状況であったらしい。はじめは何が起きたのか分からずにただ茫然としていたが、葬式を迎え状況を把握してからはずっと泣いていた。その後から父との二人暮らしが始まった。でも学校で、弁当が僕だけコンビニ弁当だったり、学校行事の親の参加が少なかったり、人前で家族の話をするのがとても嫌だった。幸いにも近くに祖父母が暮らしており、大学生となり家を出て行くまで家事の多くを助けてもらったし、常にそばにいてくれた。そんな祖父母に、どうにか恩返しができたらとずっと頭の片隅で考えていた。

そんなある時、家で裁縫道具を探していると、ある手紙を発見した。そこには「11歳の〇〇へ」と書かれていた。それは何枚もあり、それらは、母から僕あての11歳から20歳までの年齢別に誕生日のメッセージカードであった。こんな手紙を残していくなんて、まるでドラマの世界の話のようで心底びっくりした。

その中から20歳の僕にあてた手紙を読む。そこには、“生きる”ということの意味について書かれており、手紙の最後は「自分の生きた“足跡”をつけてね」と締め括られていた。それから僕は足跡ということに気をするようになった。

果たして“足跡”とはなんだろう。何が足跡になるのだろうか。ただ、足跡は今までのものなら見るができるけれど、これからのものは見るができない。これからどんな足跡をつけるかは今の自分次第である。そんな中、僕のしたい仕事を考えると、スケールの大きなことを成し遂げたい、そうすると国で働く官僚だ、そう思い始めたのは、中学生の時だった。

2022年の5月。僕は、試験勉強に熱中していた。ただ、それと引き換えに、自分は何をしたいのか全く分からなくなってしまっていた。国の立場で政策形成に携わり、未来に残る仕事をしたいという気持ちはあるのに、具体的にどんな分野で貢献したいのかはわからない。

考えても答えが出ず、夕食の準備のために家を出た。たまには違うスーパーに買い出しに行こうと、歩みを進める。その中で、小学校の時よく通った道を過ぎた。

僕は、散歩しながら思い出す、中学校に入学する直前に友達と過ごした日のことを。

僕は、図書館近くの公園でよく遊んだ。神社も中にあるような田舎らしい公園。夏が近づくと近くの用水路に水が流れ、蟬が鳴き、よく虫取りに来ていた。そして、秋頃に稲刈りを終え用水路の水が引くと、そこは未知の世界への入り口となり、その先で秘密基地なんかを作って楽しんだ。その公園から僕の家に戻る際に必ず通る畦道。そこでの会話が蘇る。「中学校ってどんな感じなんだろうな。」「違う小学校から来るやつと友達になれっかな。」「中学校でも仲良くしような」そんなたわいも無い会話をしながら畦道を歩く。無性に恋しくなった。自然の中で感じる根源的な感覚。自然の風景の中で過ごしてきたのに、いつしか都会に出ることや流行に流され、地元の田園は住宅地として造成されその面影を消していった。本当にそれでいいのか？と思い始めた。自然を体感することで、自分の感覚をリセットできたり、リフレッシュしたりできる。そんな人間の感じる豊かさは、物の豊かさや経済的な豊かさだけではなく、自然の環境においても宿るものではないのかと思った。そして、この気持ちになったのはこれが初めてではなく、そういえば、北海道へと旅行に出かけた時にも同じ気持ちになっていた。北海道のローカル線に乗り、ただ外

の風景を眺める。そこには、どこまでも広がる草原や原生林、湿地帯や海といった風景と牧草地や田畑等の風景が広がっていて、いつまでもその風景を眺めていた。「この郷愁ある風景を残したい。」そう感じていた。

「よし、環境省を志望しよう」と思ったのはこの時だった。

6月、官庁訪問を迎えた。自分が何をやりたいのか分からず、環境省を志望したのは5月ごろ。説明会も数回しか参加できず、不安だらけであった。

官庁訪問を迎え、環境省の待合室に向かう。集合時間ギリギリについてしまい、席はほぼ満席といった状態だった。席に座る人の眼差しは真剣そのもので、圧倒された。そして面接が始まり、様々な方のお話を伺う。説明会等にはほとんど参加できていなかったことから、伺う話一つ一つが新鮮であって、とても楽しい時間であった。国として行っている仕事の最前線のお話をその担当している方から直接お話を伺え、官僚の皆さんが僕の拙い質問等に真剣に耳を傾け答えていただける。そんな機会は滅多にない。そんな機会に心躍りつつ、どんどん環境省にのめり込んでいった。

その中でも印象に残っているのは、環境省での最後の原課面接だ。僕の質問に、その質問から帰結できる本質やその体験談、これから先の展望などを混ぜ込みながら答えてくださった。その姿には、環境に関する熱を強く感じ、環境にかける熱い思い、環境省として環境政策に携わることができる強い情熱を感じた。そして、目標に向けてこの熱量で働くことができるのはこの環境省でしかできない。

伺ったお話をノートにしたためる。その内容をまとめている最中に、環境政策への強い関心が想起されていく。自然風景を残したいし、地方活性化もしたい、環境と金融との関連も興味深い。環境から広がる多様なフィールドに心打たれた。環境省に入省したい。そんな決心をくれた。決心のきっかけはこんな胸の衝動から始まるものであると思い出される。その後無事に内々定をいただくことができた。

僕は、これから環境省に入省してどんな足跡を残すことができるのだろう。僕はこれから憧れの職業で、これからの未来のためにどんな足跡を残すことができるのだろう。足跡は、未来の人が過去のことを振り返ることによってのみ見ることができるもの。今は何も見えていない。でも僕には残したい足跡の目標がある。それは、人々が精神的な豊かさを体感できるような日本であって欲しいということだ。どんな人でも豊かさを感じることのできる社会。幸せを体感できる社会。そんな社会を実現したい。その上で、豊かさの感覚を感じさせる一つには自然の環境があり、自然が身近にあることは一つの重要な要素。今ある自然を守り抜く必要があると考えている。

そして、現在日本のみならず世界各国はカーボンニュートラルな社会の実現に動き出している。カーボンニュートラルは気候変動を抑え、これからの持続可能な世界の実現のためであり、その未来は今の僕らに委ねられている。2050年に日本がカーボンニュートラルを達成し、人々が皆豊かさを体感できる社会。そんな足跡を、僕の足跡として夢見ている。

母が亡くなってからもう11年が経ち、母の表情や面影もぼやけてきている。就活を終え、この先大学を卒業し、来春に環境省へと入省する。夢を叶えたことは、祖父母への恩返しになるのだろうか、これからどんな困難が待ち受けているのだろうか、と色々考えてしまう。そんな時には外に出て散歩する。散歩中に一度立ち止まって、ふと、尾崎豊の優しい陽射しを思い出す。「瞳を閉じてみる。全てはきっと優しいはずだと。」こんな気持ちでいれば、辛いことや困難なことにも立ち向かえる。そう思う。さあこれからだ。

環境省志望者へのメッセージ



以下は官庁訪問を通しての自分の気付きです。

▶官庁訪問までに訪問者が「環境オタク」である必要はありません。巷では、「官庁訪問では白書の読み込みが必要」との見解が流布されているようですが、少なくとも環境省ではそのようなことは要求されていないと感じました。むしろ、原課面接においては、ある政策を聞いて「自分事」として捉えられるか、臨場感をもって内容を把握できるかのほうが重要です。これは、白書の勉強や説明会の参加といった受動的な行為だけでは身に付かない部分ですから、普段から物事を注視してみるといった能動的な行為を取り入れてみるのが大切だと思います。

▶「環境に優しいこと」は一見素晴らしいことしかないように聞こえます。しかし、本当にそうでしょうか？あるダイナミックな政策を実現する際に輝いている部分にフォーカスが当たることがあります。例えば、プラスチックの袋の有料化は、それにより環境に配慮していることは事実です。しかし、他方でこれまでプラスチックの袋を製造されていた企業からすれば大打撃です。企業には従業員やそのご家族がいらっしゃいます。その方々の生活を事実上脅かしていることも事実です。行政官は、その痛みも理解して、政策を実現する必要があるように思われました。

▶環境省職員として勤務するためには「環境」という軸を持ちつつも、それだけでなく経済や外交、政治、社会情勢など様々な事情を理解・把握していなければならない、と原課面接を通して感じました。私も、入省後も不断の努力によって知見・教養を身に付けていきたいと考えています。

何がしたいか、ということも大事ですがそれ以上にどのような価値・正義を掲げる組織で自分が働きたいか、ということが私は進路選びにとって大切だと思います。私自身、官庁訪問が始まってからこのことに気付き、志望順位が大きく変動しました。私のように官庁訪問中に各省庁の大切にしている”価値”に触れる、というのでも全然間に合いますが、説明会や座談会は各省庁の大切にしている”価値””姿勢”を予め把握する場、と考えてもらうのが納得のいく就職活動のために大切になってくるのではないかと思います。そのような視点も大切にしつつ納得のいく省庁選びができ、その希望が叶うことを祈っています。

精神的に大変なこともありましたが、振り返ってみると楽しかったというのが率直な感想です。特に官庁訪問は様々な方からお話が聞ける貴重な機会でした。ぜひ楽しんでください。

就職活動や国家公務員試験・官庁訪問は、自分の思い通りにならないこともあり大変ですが、一喜一憂流されることなく、自分の軸をもって是非前のめりにこのプロセスを楽しんでください。

環境省は前身の環境庁の設置から50年余りで、霞が関の中ではまだまだ“若い”組織だそうです。環境行政に期待される役割は、これまでも、そして、これからも、増大し続けるはずで。そのような環境省において「この国を、この地球を、未来につなぐ。」という想いを一緒に実現していきましょう！

環境省は環境政策や生物に関する知識以外にも、広く様々なものに興味のある人を求めている職場だと改めて感じています。自身の専門分野以外にも、様々な授業・ニュースに触れて関心を広げることをお勧めします。その中で、一緒に働けることになれることを楽しみにしています。



将来のことを考えて不安感に苛まれることもあると思いますが、そういう時間はつらいしもったいないと思うので、何か手軽に自分を楽しませられるものをもっておくと思います。就職活動自体を楽しむことは難しくても、趣味などを楽しみつつ就職活動を行うことができれば、かなり気が楽です。ぜひ、息切れしないように気長に構えて、頑張る自分を目一杯甘やかしながら、6・7月まで環境省への気持ちを持ち続けていただけたら嬉しいです。

就職活動は思った以上に大変でした。辛かったことも時折思い出します。家族や友人、先生の存在に頼らなかつたら乗り越えられませんでした。日々の不安や小さな幸せ（買ったパンがおいしかったとか）を話すなど、1日の中で少し荷を降ろす時間をとってみて下さい。加えて、就職活動が終わった時の自分は後悔していないか？と未来の自分と会話することもおすすめです。私は、「どんな仕事も大変そうだけど、自分や周りの大切な人、未来の子供たちが生きやすい環境づくりのためなら少し頑張れそうだな」と考えこの道を選びました。興味のない分野も含め様々な選択肢を比較検討することで、「少しがんばれそう」なことが見つかると思います。就活生という立場を存分に活用して色々な場所に足を運び、沢山の方とお話してみして下さい！

環境省への就活を含め、就活では完璧を目指さず、あまり自分を追い詰めないようにすることが大事だと思います！

焦り過ぎず、自分が何をしたいのか落ち着いて考えてみてください。迷っていたらぜひいろいろな人に相談してみてください。僕たちも含め様々な方がきっと喜んで相談に乗ってくれます。そして最後は自分自身で勇気を持って進路を切り開いていってください。将来一緒に働けることを楽しみにしています。応援しています！

就職活動全般を通して、これまでにない大きな壁にぶつかることとなる人が多いと思いますが、これからも末永く付き合い続ける自分自身を見つめ直す貴重な機会になると思うので、ぜひめげずに挑戦してみてください。回り道になって多少他人より時間がかかってもかまわないので、行動し続けることを大事にしてください。そして、わからないことがあれば周りの人をたくさん頼って、自分なりの答えが少しでも見つけられるような就職活動になるよう応援しています。

環境省に興味関心を抱き、内定者の声を読んでいただきありがとうございます。環境を軸に就活されている方や国家公務員の官庁訪問先として悩んでいる方など様々な方にご覧頂き嬉しく思います。さて、志望者へのメッセージということですが、環境に囚われず、自分が世の中の何に問題意識を持ち、どの立場でどう変えたいのかということが一番考えておくべきことだと思います。例えば、地方衰退に問題意識を持つならば、地方活性化をすべきということになるかと思いますが、地方活性化に携われる省庁はたくさんあります（総務省、経産省、農水省、国交省、環境省etc...）。その中で、どの立場でどう取り組みたいのかを考えていただくとういことだと思います（自分は企業支援から地方活性化をしたいとか農作物等の振興で地方を盛り上げていくんだとか）。それは、自分の就活の軸となりますし、そう考えたきっかけ等は自分だけのエピソードトークになりえます。そして、結局どうにかなると思います。筆記試験、面接、官庁訪問など不安は耐えないものですが、なんとかなります。そんな根拠なき自信を持つことも時には力になります、たぶん。

おわりに

この度は「内定者の声」をお手に取っていただきありがとうございます。

本冊子は、官庁訪問そして就職活動全般において、志望者の方々のお力添えになれることを目指して作成いたしました。先が見えず大変なことも多くあるかと思いますが、少しでも助けになれば幸いです。

昨今、日本でも世界でも気候変動対策・そして環境行政の重要性は日に日に増しており、新聞等で環境行政に関わる記事を見かけない日はないと言っても過言ではなくなってきました。そんな時代に環境行政に少しでも興味を持ってくださった皆さんが、一足早く環境省職員を志した私達のこの記録によって、環境省に対する理解を少しでも深め、興味関心を抱いていただけたら、内定者一同大変嬉しく思います。

なお、内定者及び環境省職員は十人十色で、執筆者が違えばその分異なる環境省の見方や本年度版にはない情報に触れられると思いますので、過年度版の「内定者の声」も参考にしてみてください。

そして、環境省についてもっと知りたい！と思われた方は、是非お気軽に環境省の説明会やイベントにぜひお気軽におこしてください。また、環境省ホームページやパンフレット、各種SNSやYouTubeにもたくさんの情報を載せておりますので、ご覧いただけますと幸いです。きっと環境省のミッションや雰囲気についての理解が深まり、進路選択の参考になるでしょう。

それでは、内定者一同、皆さまとお会いできることを心より楽しみにしております。

令和5年度環境省総合職事務系内定者一同

満開に咲き誇る桜 大阪府高槻市にて撮影

〔注意〕

- ・本冊子の記載事項は、内定者の私見に基づくものであり、環境省の意向を反映させたものではありません。
- ・本冊子に使用しました写真素材およびイラストは、内定者が撮影した写真ならびに各種フリー素材を使用しました。

環境省
Ministry of the Environment